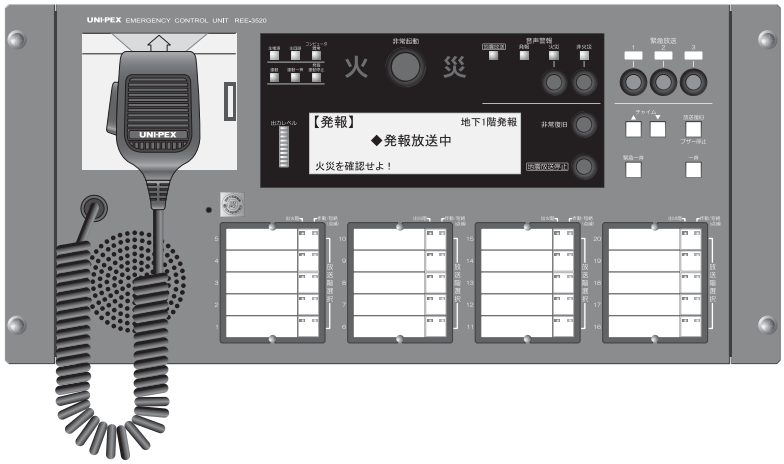
UNI-PEX

取扱説明書

ユニットセット
RUS-3000

REE-3520



RJK-3300

このたびは、ユニットセットをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本品は非常業務操作ユニット REE-3520と基本制御端子盤ユニット RJK-3300のセット品です。
本ユニットセットは、EL-3000シリーズのユニットと組み合わせて使用してください。

製品の詳細（操作方法など）につきましては、ラック形非常用放送設備 EL-3000シリーズの取扱説明書をお読みください。

特にご注意を

■必ず消防署の許可の上、使用してください。
■本ユニットセットは、EL3000シリーズのユニットと組み合わせて使用してください。
■使用するラックは、EL-3150、EL-3200のラック、または同等のラック（外殻の厚さが0.8mm以上の鋼板）を使用してください。

■ 付属品

取扱説明書（ユニットセット）・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
取扱説明書（EL-3000シリーズ）（保証書付）・・・・・・・・・・1
工事説明書（本編）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
工事説明書（書込編）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
非常放送のしかた（カードケース入り）・・・・・・・・・・・・・1
放送階選択ネームカード（赤）・・・・・・・・・・・・・・・・・1
放送階選択ネームカード（青）・・・・・・・・・・・・・・・・・1
ヒューズ（0.5A,30mm）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
ヒューズ（4A,30mm）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
3極大形単頭プラグ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
通信ケーブル（モジュラータイプ 2.1m）・・・・・・・・・・・・1
制御ケーブル（2P-2P 0.5m）・・・・・・・・・・・・・・・・・1
制御ケーブル（2P-2P 2m）・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
制御ケーブル（4P-4P 1.9m）・・・・・・・・・・・・・・・・・1
制御ケーブル（10P-10P 2m）・・・・・・・・・・・・・・・・・1
制御ケーブル（12P-12P 2.4m）・・・・・・・・・・・・・・・・1
3極大形単頭プラグ付コード（2.4m）・・・・・・・・・・・・・・1

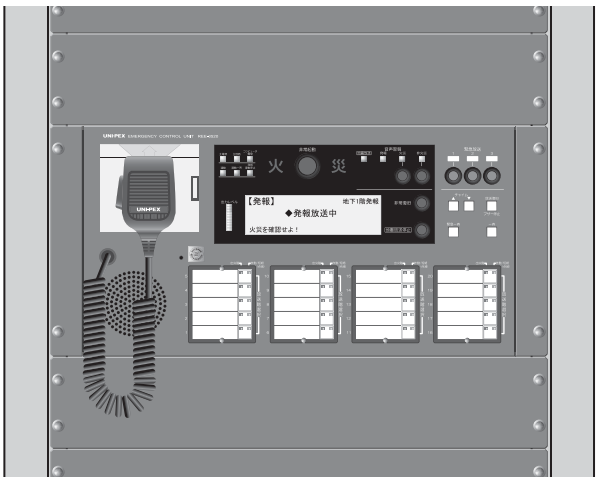
UNI-PEX

取扱説明書(保証書付)

ラック形非常用放送設備

EL-3000シリーズ

大形ラック **EL-3200**　中形ラック **EL-3150**



このたびは、ラック形非常用放送設備をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

目　次

安全上のご注意・・・・・・・・・・・・・・・・・1〜3
設置・使用上のご注意・・・・・・・・・・・・・・・3
免責事項について・・・・・・・・・・・・・・・・・4
本機を長期間お使いの場合は・・・・・・・・・・・・4
使用上のお願い・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
特長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
各ユニットの名称・・・・・・・・・・・・・・・・・5
非常放送のしくみ・・・・・・・・・・・・・・・・6〜7
各部の名称と説明・・・・・・・・・・・・・・・・8〜12
緊急地震放送のしかた・・・・・・・・・・・・・・・13
非常放送のしかた(1)〜(6)
　(1)感知器起動(発報連動)・・・・・・・・・・・・14
　(2)感知器起動(発報連動停止)・・・・・・・・・・15
　(3)発信機･非常電話起動(発報)・・・・・・・・・16
　(4)発信機・非常電話起動(火災)・・・・・・・・・17
　(5)手動(発報)・・・・・・・・・・・・・・・・・18
　(6)手動(火災)・・・・・・・・・・・・・・・・・19
緊急放送のしかた・・・・・・・・・・・・・・・20〜21
業務放送のしかた・・・・・・・・・・・・・・・22〜23
各放送の説明・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
業務放送の優先順位・・・・・・・・・・・・・・・・24
設置時の点検・・・・・・・・・・・・・・・・・25〜33
保守点検のしかた(保守点検業者の方へ)・・・・34〜36
故障と思う前に・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
定格・付属品・・・・・・・・・・・・・・・・・38〜39
連絡先のご案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
保証書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40

安全上のご注意　必ずお守りください

●設置工事の前に必ず、この「安全上のご注意」と工事、取扱方法に関する説明をよくお読みの上、正しく設置してください。
●お読みになったあとは、必ず保存してください。

安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

△記号は注意(危険･警告)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。

◇記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。左図の場合は一般的な行為を指示する表示です。

⚠危険

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

蓄電池を分解／改造はしない

電池内部の液が飛び出し目に入ったりして失明などの事故の原因となります。

蓄電池を火の中に入れない

火気にも近づけないでください。発火、破裂の原因となります。

蓄電池の＋／－端子をショートさせない

発熱、発火の原因となります。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

異常が起きたときは、ただちに使用をやめる

煙が出ている、においや音がする、水や異物が入った、落として破損したなど、火災・感電の原因となります。
ただちに制御電源ユニットのブレーカーをOFFにし、販売店または工事店にご連絡ください。

工事は工事店に依頼する

工事には、技術と経験が必要です。、火災・感電、けが、器物損壊の原因となります。工事店にご相談ください。

分解／改造はしない

火災・感電の原因となります。点検および配線時以外にこの機器の裏ぶた、カバーなどは絶対に外さないでください。内部の点検・整備・修理は保守契約店または工事店にご依頼ください。

異物を入れない

水や金属が内部に入ると、火災・感電の原因となります。ただちに分電盤の電源を切って、保守契約店または工事店にご連絡ください。

この機器の上に花瓶など水の入ったものを置かない

こぼれたり中に水が入った場合、火災・感電の原因となります。

電源コードおよびその他のコード類を傷つけない

電源コードおよびその他のコード類の上に重いものをのせたり、無理に曲げたり、ねじったり、引張ったりすると、火災・感電の原因となります。電源コードおよびその他のコード類が傷んだら(芯線の露出、断線)販売店などに交換をご依頼ください。

決められたヒューズを使う

規定以外のヒューズを使うと火災の原因となります。

定期的に点検をする

非常時に作動しないと、火災や災害を拡大する原因となります。点検は保守契約店または工事店にご依頼ください。

蓄電池の充電は、必ず指定の機器を使用する

指定の機器以外の充電器を使用すると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となります。

蓄電池の寿命は4年です。4年毎に必ず新しい蓄電池に交換してください。また寿命は使用状態により違いますので、それ以前でも点検のときに、容量不足があれば新しい蓄電池に交換してください。火災のとき動作しない原因となります。交換は保守契約店または工事店にご依頼ください。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

開梱や持ち運びは、必ず2人以上でおこなう

本機は重いので、開梱や持ち運びは必ず2人以上でおこなってください。けがの原因となることがあります。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

湿気やほこりの多い場所、油煙や湯気が当たるような場所に置かない
火災・感電の原因となることがあります。

不安定な場所に置かない
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

重量に耐える場所に取り付け、設置をする
取付場所の強度が不充分なとき、転倒等により、けがや破損の原因となることがあります。

表示された電源電圧以外の電圧で使用しない
火災・感電の原因となります。

電源プラグのほこりなどは定期的に取り除く
プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。
定期的に電源プラグを抜き、乾いた布などで拭きとってください。

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない
コードが傷つき、火災、感電の原因となります。必ずプラグを持って抜いてください。

電源コードを傷つけない
電源コードの上に重いものをのせたり、無理に曲げたり、ねじったり、引張ったりすると、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線)販売店などに交換をご依頼ください。

移動するときは、コード類を傷つけない
火災、感電の原因となることがあります。移動させる場合は、分電盤の電源を切り、必ず電源線や、外部の接続コードを外してから行ってください。

雷が鳴り出したら、スピーカー線には触れない
感電の原因となります。

指定以外の蓄電池は使用しない
蓄電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

蓄電池に張ってあるビニールカバーははがさない
ショートして電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

蓄電池は、必ず点検をおこなう
蓄電池の点検は日常点検のほかに、外観点検および機能点検は6カ月に一度以上、総合点検は1年に一度以上行ってください。火災や故障の原因となることがあります。なお、点検費用については保守契約店または工事店にご相談ください。

機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読みください。機器の接続は保守契約店または工事店にご依頼ください。

設置・使用上のご注意

●電力アンプの上下には必ず、1U以上の間隔を開けてください。別売の換気パネル RIB-1F(別売品)を取り付けることをおすすめします。
●次のような場所では使用しないでください。誤動作、故障、漏電の原因になります。
・使用湿度範囲をこえる85%以上の場所／屋外などの雨や日光に直接当たる場所／結露が生じる場所／激しい振動や衝撃が発生する場所
●本機を雑音発生の原因になる機器※の近くには設置しないでください。
※高周波機器(乾燥機、医療機器など)、電気溶接機、ブラッシングモーター、自動車の通る道、携帯電話機、デジタル機器(コンピューター、電子楽器など)、空気清浄器。

遮断装置について

●本機には電源スイッチがありませんので、制御電源ユニットのブレーカーが遮断装置になります。
異常が起きた時は、ただちに使用をやめ、制御電源ユニットのブレーカーをOFFにし、販売店または工事店にご連絡ください。

免責事項について

当社は下記の事項に関して一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
①お客さまの故意、過失、誤用、その他異常な条件下での使用による損害または本製品の破損など
②本製品に直接または間接に関連して生じた、偶発的、特殊的、または結果的損害・被害
③本製品のお客さまご自身による修理、分解または改造が行なわれた場合、それに起因するかどうかを問わず、発生した一切の故障または不具合により生じた損害
④本製品の故障・不具合を含む何らかの理由または原因により、使用ができないことなどによる不便・損害・被害
⑤第三者の機器と組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害

本機を長期間お使いの場合は

本機を安全に使用していただくために、販売店または工事業者による定期的な点検をおすすめします。
外観上は異常がなくても、使用条件によっては部品が著しく劣化している可能性があり故障したり、事故の原因となることがあります。下記❶～❹の様な状態ではないか日常的に確認してください。もしその様な状態を発見されましたら直ちに電源を切り（使用中止）、販売店または工事業者に点検や撤去をご依頼ください。
特に10年を超えて使用されている場合は、定期点検の回数を増やしていただくとともに買い換えの検討をお願いします。
❶煙が出たり、こげ臭いにおいや異常な音がしている。　❷電源コード・電源プラグが異常に熱い。または亀裂や傷がある。
❸本機に触れるとビリビリと電気を感じる。　❹電源を入れても音が出てこない、その他の異常・故障がある。

使用上のお願い

●日常点検をしてください。
万一の際、正常に機器が動作するよう日常点検をおこなってください。特に非常電源の点検は必ずおこなってください。

●日常点検時に異常を発見した場合は、ただちに販売店または保守契約店にご連絡ください。
修理・復旧を実費でおこないます。詳しくは販売店にご相談ください。

●日常点検は機器の動作の一部だけを点検するもので、全てではありません。必ず定期点検をおこなってください。

●保守契約のお願い
消防法により定期点検、消防署への報告、および点検結果の維持、台帳への記録が義務付けられています。建物の規模、用途によっては消防設備士、または自治大臣が認めた有資格者が点検しなければなりません。
非常業務兼用放送設備が正しく動作するために、保守契約の締結をおすすめします。保守契約の締結については、販売店（工事店）または販売会社にお問い合わせください。
保守契約を締結していただくことは、ご使用者にかわって「消防設備士（第4類甲、乙、第7類乙）」・「第2種消防設備点検資格者」が定期点検をお引き受けするわけですから、保守期間内であっても定期点検業務については有償となります。

●分電盤のスイッチは絶対に切らないでください（常に主電源表示灯が点灯していること）。
非常放送設備には、停電時でも放送できるように非常電源（蓄電池）が組み込まれており、常に蓄電池を充電していますので分電盤などのスイッチを絶対に切らないようにしてください。

●遮断装置について
本機の電源は十分な電流容量の遮断装置（ブレーカー）に接続してください。
遮断装置（ブレーカー）は保護アース導体を除く、主電源のすべての極が遮断できるものを使用してください。

●設置について
本機の上や周囲に物を置かないでください。
・操作部および遠隔操作器の操作スイッチは、床面からの高さが0.8m以上1.5m以下の箇所に設置してください。
・左右0.5m以内、操作面1m以内には物を置かないでください。操作の妨げになる原因となります。
操作説明書は本機の近くに置いてください。
・設定した起動方式のページを透明ケースに入れてください。
非常時に確実に操作できるように、本機の近くに置いてください。

●お手入れのしかた
ケースが汚れたらうすめた台所用洗剤を布にしみ込ませ、よくしぼり、軽くふいてください。そのあと、からぶきしてください。

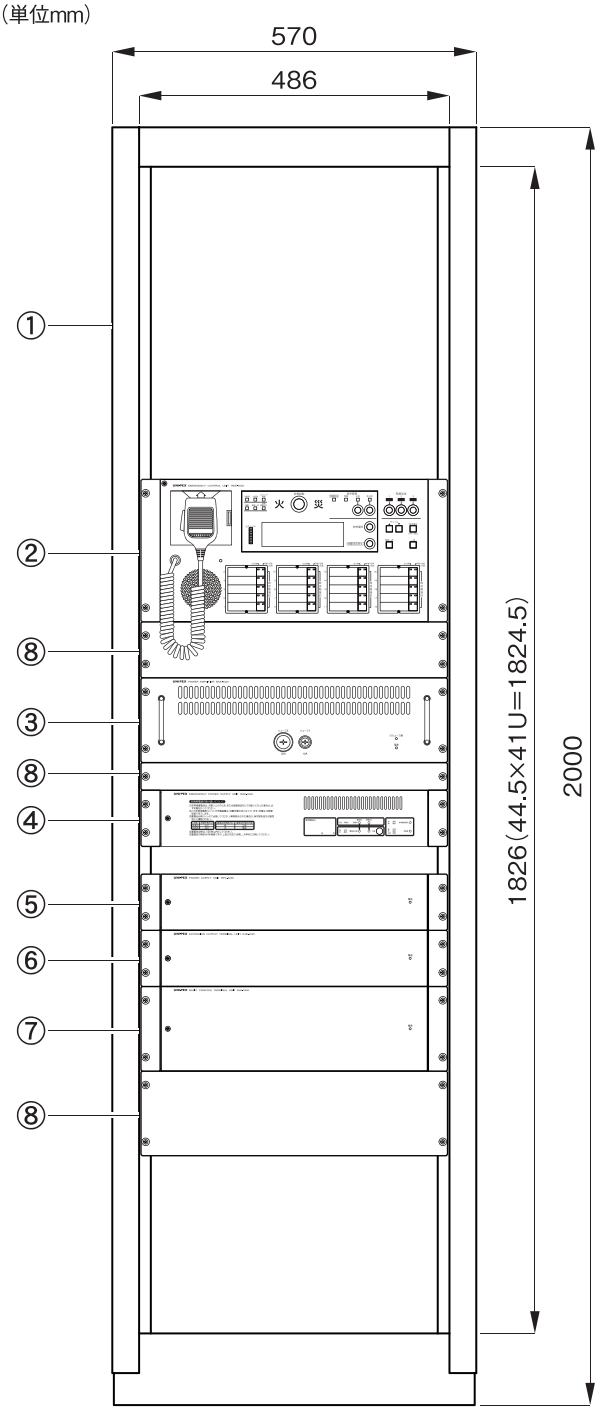
お願い
・操作部に触れますと、非常放送などが放送される場合があります。お手入れをする場合は操作部に触れないようにするか、適切な状況のもとでのみお願い致します。
・ベンジンやシンナーなど揮発性のもの、研磨剤は使用しないでください。
・化学ぞうきんを使用するときは、その注意事項をよくお読みください。
・内部の清掃や点検は、販売店にご相談ください。

特　長

□中規模から大規模の建築物に適した非常業務兼用放送設備です。
□緊急地震速報受信端末に連動した、緊急地震放送に対応しています。
□スピーカー回線は、20回線から最大200回線まで増設可能です。
□蓄電池、リモコン回線、スピーカ回線、非常業務兼用マイク、コンピュータ自身の自己診断機能付きです。
□必要な場所だけに放送できる、ブロック指定放送が可能です。
□非常放送以外に、一般業務放送も可能です。
□コールサインの上り4音、下り4音選択スイッチ付きです。
□汎用制御出力があります。

各ユニットの名称

（単位mm）



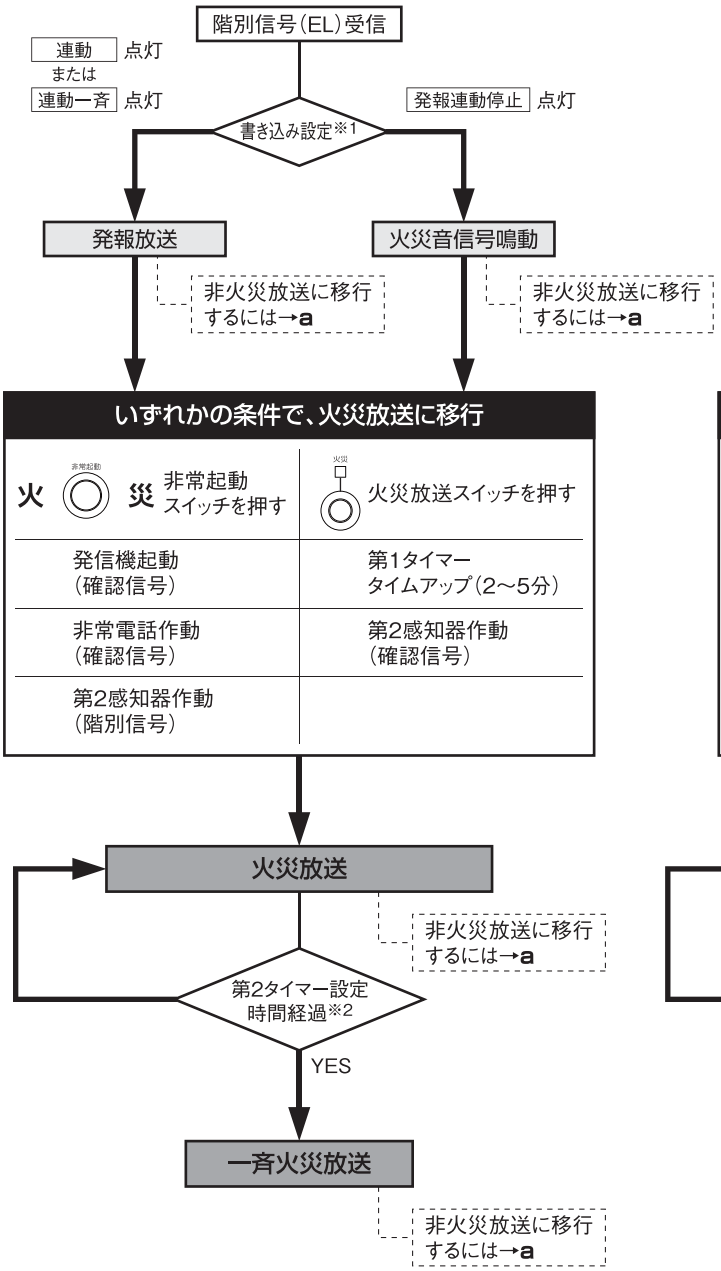
① ラック
② 非常業務操作ユニット・・・ REE-3520
③ 電力増幅ユニット・・・・・ RAA-3212（120W）（別売）
RAA-3324（240W）（別売）
RAA-3436（360W）（別売）
④ 非常電源ユニット・・・・・ RDE-3220（別売）
⑤ 制御電源ユニット・・・・・ RPC-3200
⑥ 増設出力端子盤ユニット・・ RJB-3220
⑦ 基本制御端子盤ユニット・・ RJK-3300
⑧ ブランクパネル・・・・・・ RIB-1（1U）（別売）
RIB-2（2U）（別売）
RIB-3（3U）（別売）

※本外観図は大形ラック形非常放送アンプ（EL-3200）に
電力増幅ユニット、非常電源ユニットを組み込んだ図です。

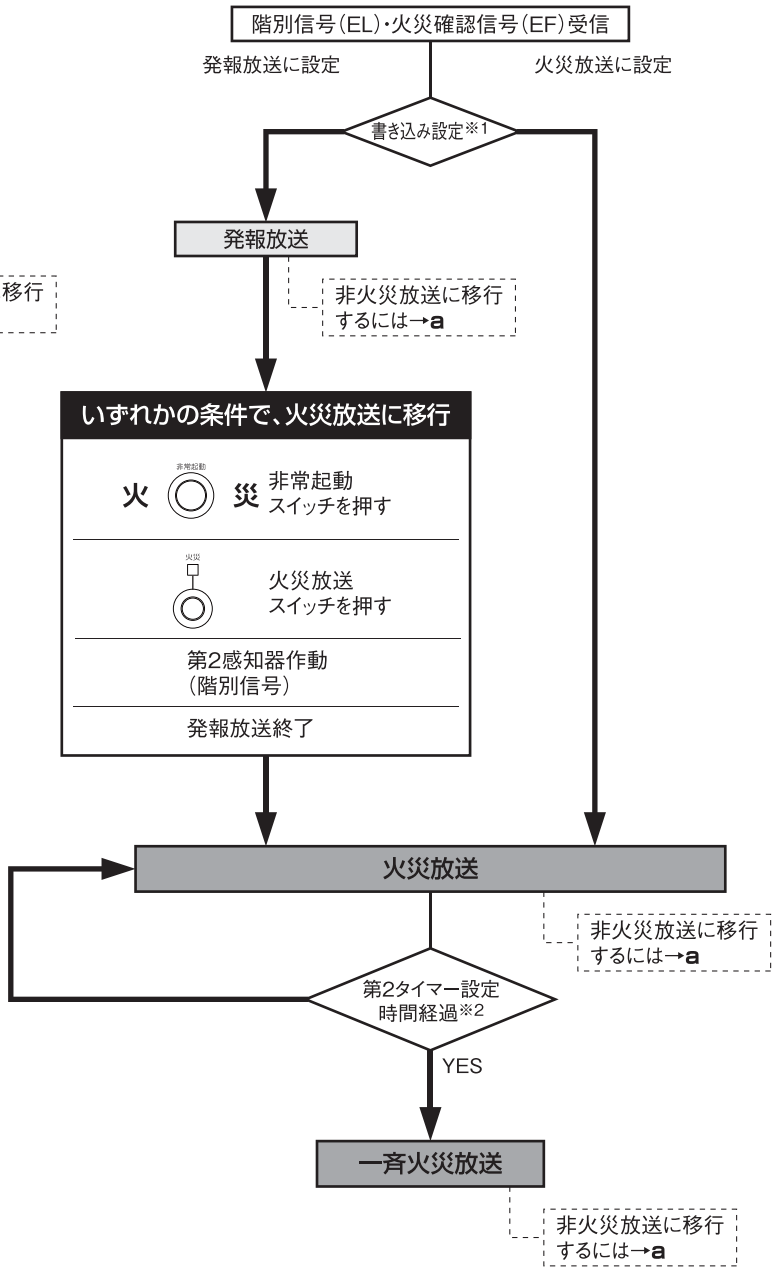
非常放送のしくみ

●非常用放送設備は、火災発生時に音声警報を自動的に放送します。
もちろん、通常の呼出放送など、業務放送もおこなえます。
●起動方式により操作方法（動作）に少し差があります。あらかじめ販売店（工事店）から起動方式を確認しておいてください。

火災感知器による起動



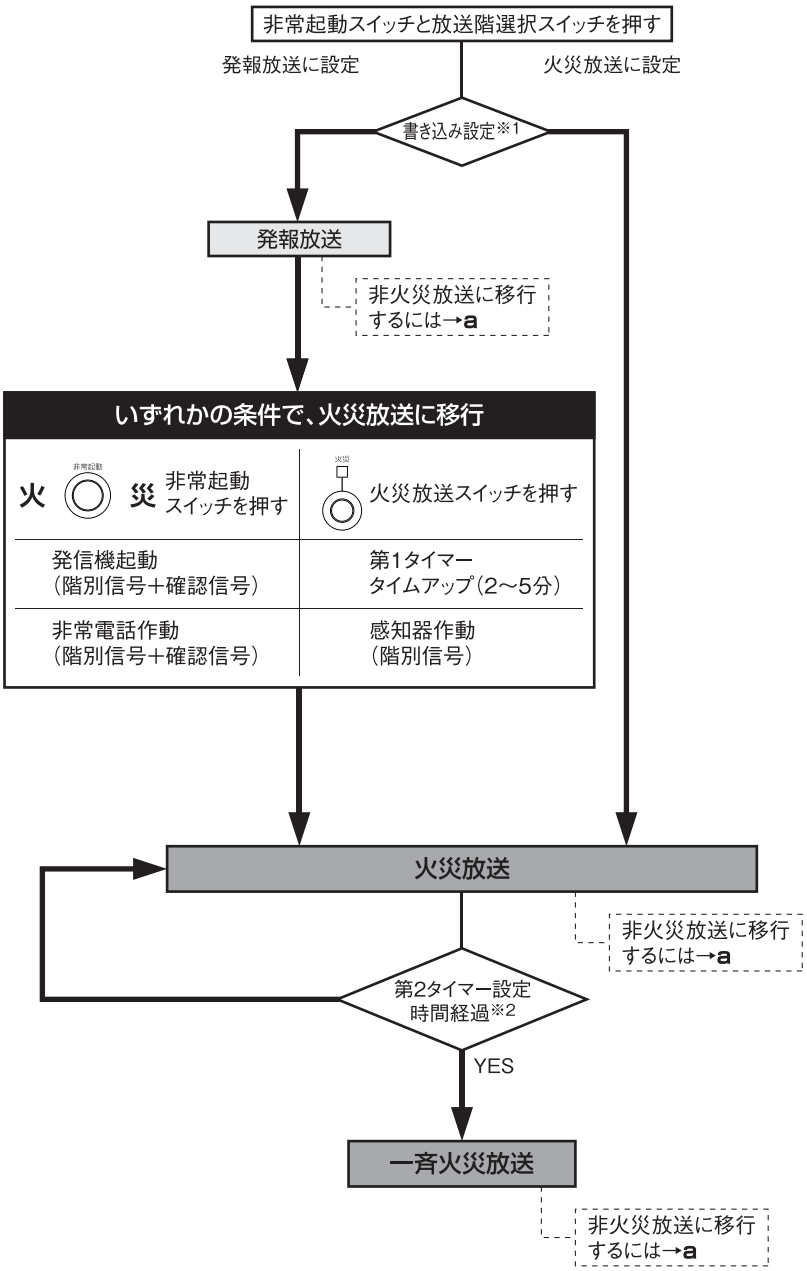
発信機および非常電話による起動



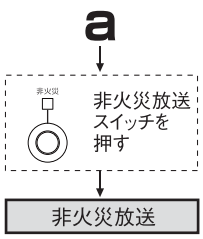
※1　書き込み設定による
※2　0分、2～5分、OFF（設定内容による。第1、第2タイマーの初期設定は2分です。最大15分まで設定可能ですが、5分を超えて設定する場合は所轄の消防署の許可が必要です。）

●自火報に確認信号がない場合は、感知器起動動作になります。
●火災放送開始から一定時間経過した後、全館への一斉火災放送に移行する第2タイマー機能を有しています。
●音声メッセージの階情報は変更が可能です。(販売店にご相談ください。)

手動による起動

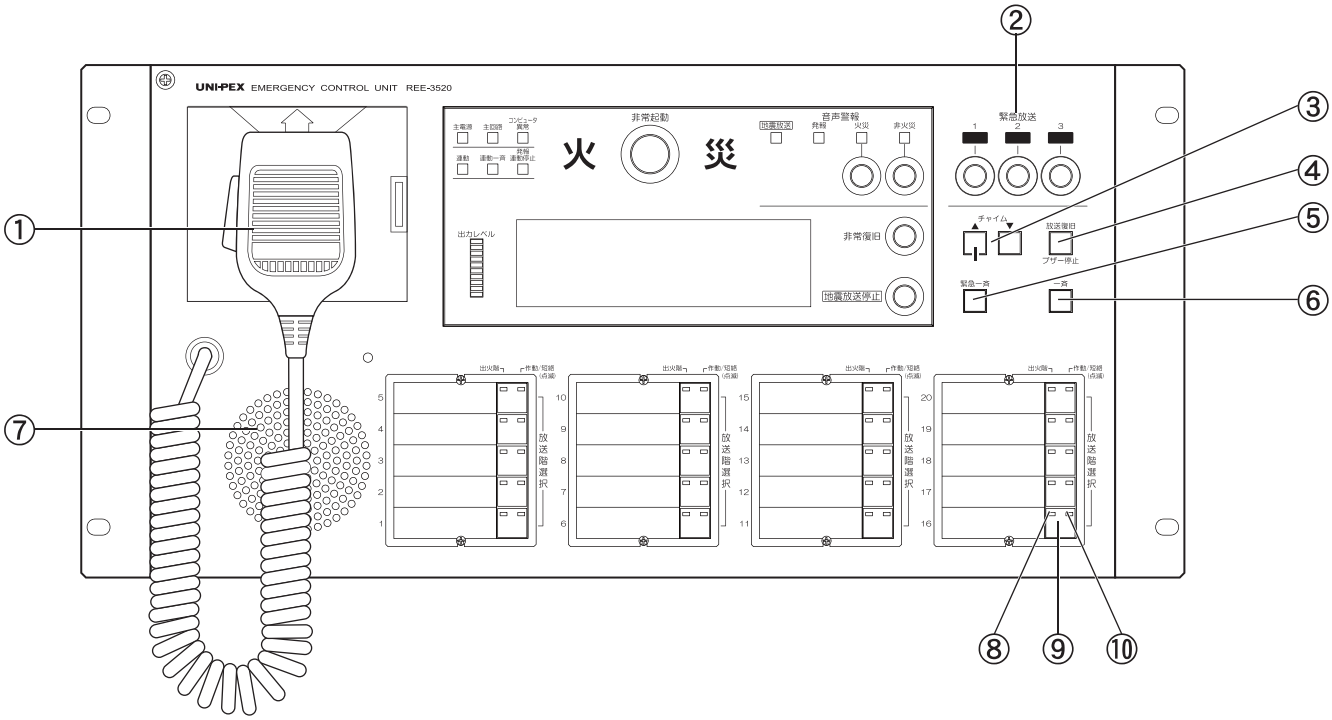


●非火災放送に移行するには
非火災放送スイッチを押すことにより非火災放送に移行できます。



各部の名称と説明

非常業務操作ユニット REE-3520



① 非常業務兼用マイク

・マイクを外し、スイッチを押しながら放送してください。

② 緊急放送スイッチ1、2、3

・業務放送または放送停止時に緊急放送するときに使用します。
・設定した音声メッセージを一斉放送します。

③ チャイムスイッチ

・▲：上り4音チャイムを放送します。
・▼：下り4音チャイムを放送します。

④ 放送復旧スイッチ（ブザー停止兼用）

・業務放送時に放送している放送先指定を全て解除し、放送を復旧します。
・コンピュータ異常時、警告音（ブザー）を停止します。

⑤ 緊急一斉スイッチ

・全ての放送階に一斉放送するときに使用します。
・アッテネーターは無効となり、最大音量で放送します。

⑥ 一斉スイッチ

・全ての放送階に一斉放送するときに使用します。
・アッテネーターで調整された音量で放送します。
・非常放送及び緊急放送時は、スピーカー出力は緊急になります。

⑦ モニタースピーカー

・放送内容をモニターできます。
・非常放送時は操作ガイドの音声も出ます。

⑧ 出火階表示灯

・自火報入力が起動されると、その入力に関係付けしている放送階の出火階表示灯が点灯します。

⑨ 放送階選択スイッチ

・非常または業務放送時、放送階を選択するときに使用します。
・ブロック選択されているときは、設定されている放送階の作動表示灯を点灯し、スピーカー回線を起動します。

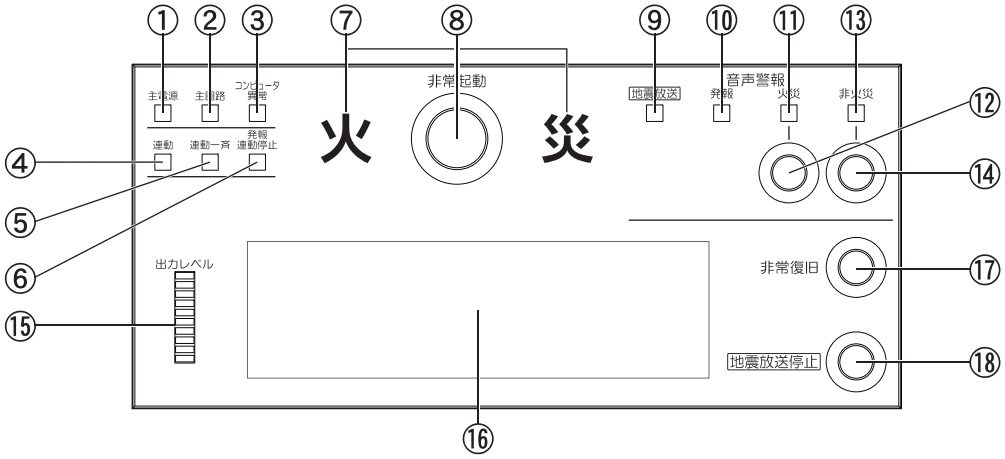
⑩ 作動表示灯（短絡表示灯兼用）

・放送先が選択され放送可能になったとき点灯します。
・スピーカー回線が短絡したとき点滅します。

お願い

・短絡表示灯が点滅したときは、販売店、保守契約店にご連絡ください。

ディスプレイ（REE-3520）



① 主電源表示灯（緑色）
- 常用電源（AC100V）が正常に供給されているとき点灯します。
- 非常電源（DC24V）に切り換わると消灯します。（停電時の非常動作時）

② 主回路表示灯（緑色）
- 主回路電源電圧が正常なとき点灯します。

③ コンピュータ異常表示灯（赤色）
- コンピュータに異常があるとき点灯します。

④ 連動表示灯（赤色）
- 連動表示灯が点灯しているときに感知器や発信機などからの階別信号を受信すると出火階と連動階に「非常放送」が放送されます。
- 設定は、書込によりおこないます。

⑤ 連動一斉表示灯（赤色）
- 連動一斉表示灯が点灯しているときに感知器や発信機などからの階別信号を受信すると全館一斉に「非常放送」が放送されます。
- 設定は、書込によりおこないます。

⑥ 発報連動停止表示灯（赤色）
- 発報連動停止表示灯が点灯しているときは、感知器からの階別信号を受信しても「発報放送」は放送されません。
- 設定は、書込によりおこないます。

⑦ 火災灯（赤色）
- 階別信号からの非常起動により点滅します。
- 階別信号+火災確認信号からの非常起動により点灯します。
- 非常起動スイッチを押すと、点滅または点灯します。

⑧ 非常起動スイッチ
- 手動で「非常放送」を放送するときに押します。

※発報放送時または発報連動停止状態で、階別信号入力時に非常起動スイッチを押すと、火災放送にすることができます。

⑨ 地震放送表示灯（オレンジ色）
- 緊急地震放送端子に起動信号が入力されると点滅し、緊急地震放送が放送されます。

⑩ 発報放送表示灯（オレンジ色）
- 発報放送時に点灯します。

⑪ 火災放送表示灯（赤色）
- 火災放送時に点灯します。

⑫ 火災放送スイッチ
- 非常時、スイッチを押すと火災放送が放送されます。

⑬ 非火災放送表示灯（緑色）
- 非火災放送時に点灯します。

⑭ 非火災放送スイッチ
- 非常時、スイッチを押すと非火災放送が放送されます。

⑮ 放送出力レベル計
- スピーカーより流れる音の出力レベルを表示します。

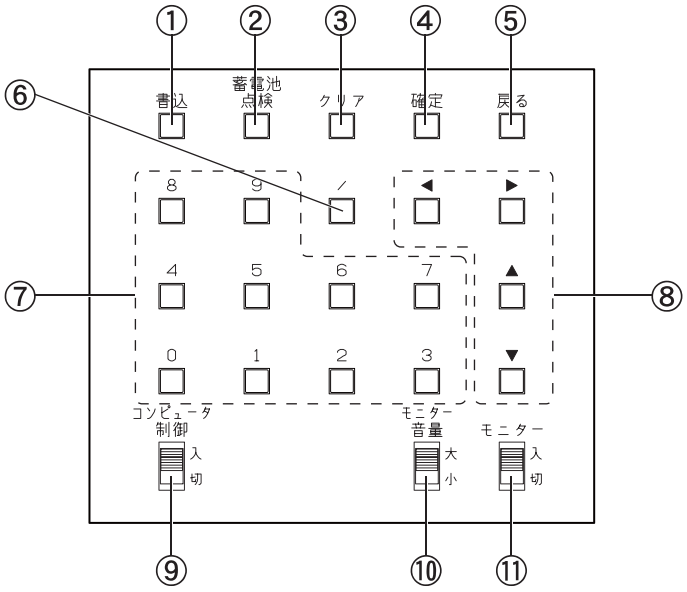
⑯ LCD画面
- 緊急地震放送時、非常放送時及び業務放送時の状態を表示します。
- 書込設定の内容を表示します。
- 異常が発生したときの内容を表示します。

⑰ 非常復旧スイッチ
- 非常放送を復旧します。

⑱ 地震放送停止スイッチ
- 緊急地震放送中に押すと、地震放送を停止し、地震放送表示灯を消灯して地震放送が起動される前の状態に戻ります。

各部の名称と説明

マイク扉内（REE-3520）



① 書込スイッチ
・書込をおこなうときに使用します。書込モード時に押すと通常モードになります。

② 蓄電池点検スイッチ
・蓄電池点検をおこないます。
・点検後は結果をLCD画面に表示します。

③ クリアキー
・書込時、入力途中のデータを消去する場合に使用します。

④ 確定スイッチ
・書込時、入力内容を確定する場合に使用します。

⑤ 戻るスイッチ
・書込時、一つ前の設定入力画面に戻るときに使用します。

⑥ ／キー
・書込時、複数の項目を選択するときに項目ごとの区切りに使用します。

⑦ 10キー
・書込時、数字入力が必要な場合に使用します。

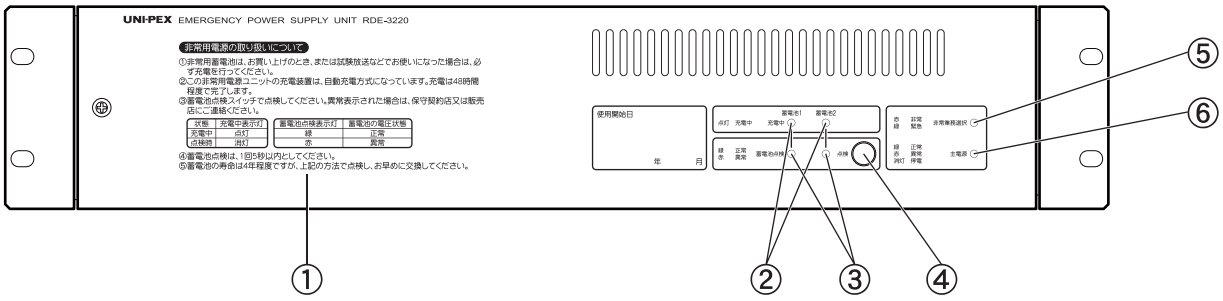
⑧ カーソルキー
・書込時や状態確認時、表示項目移動するときに使用します。

⑨ コンピュータ制御スイッチ
・通常は「入」の位置にします。
・異常等で修理した後、このスイッチを「切」にしてから「入」にしてください。正常の動作に戻ります。
・コンピュータが異常となったとき、コンピュータ制御スイッチを「切」にするとハンドマイクで一斉放送ができます。

⑩ モニター音量スイッチ
・モニタースピーカーの音量を、大、小の2段階に調節できます。
（緊急地震放送時及び非常時は無効となり、音量は大の設定になります。）

⑪ モニター入切スイッチ
・モニタースピーカーを動作させるか設定します。
（緊急地震放送時及び非常時は無効となり、モニタースピーカーは動作します。）

非常電源ユニット RDE-3220 ※詳しくは非常電源ユニットに付属の取扱説明書をご覧ください。



① 操作説明部

② 充電中表示灯（緑色）

・蓄電池が充電されているとき点灯します。

③ 蓄電池点検表示灯

・蓄電池の電圧の状態を表示します。
　緑色：正常
　赤色：異常

④ 蓄電池点検スイッチ

・内蔵の蓄電池の点検をします。
・スイッチを押している間、蓄電池の電圧が正常なときは緑色、異常なときは赤色を点灯します。

⑤ 非常業務選択表示灯

・赤色：非常放送用として使用されています。
　※緊急地震放送用も含まれます。
・緑色：緊急放送用として使用されます。

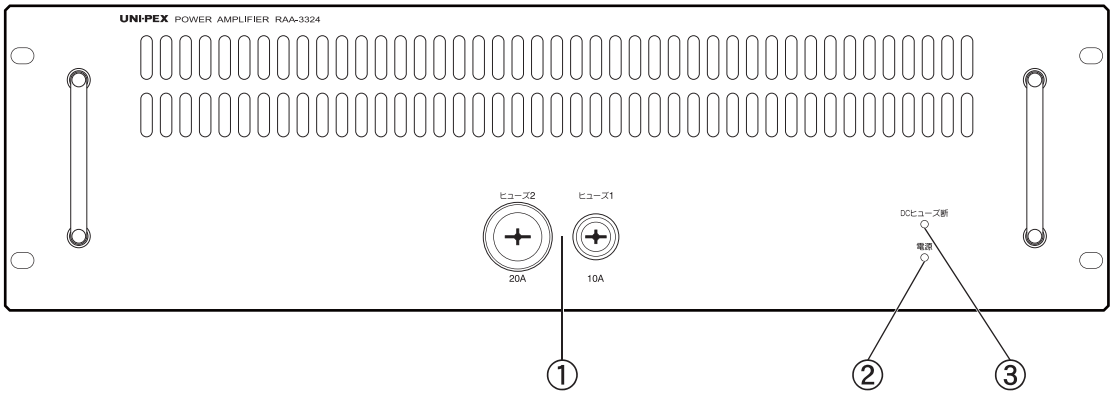
⑥ 主電源表示灯

・緑色：常用電源（AC100V）が正常に供給されているとき点灯します。
・赤色：電源が異常なとき点灯します。

各部の名称と説明

電力増幅器 RAA-3212(120W)、3324(240W)、3436(360W)

※詳しくは電力増幅器に付属の取扱説明書をご覧ください。



① 電源ヒューズ

・電源及び回路保護のためのヒューズです。

② 電源表示灯(緑色)

・常用電源(AC100V)または非常電源(DC24V)が正常に供給されているとき点灯します。

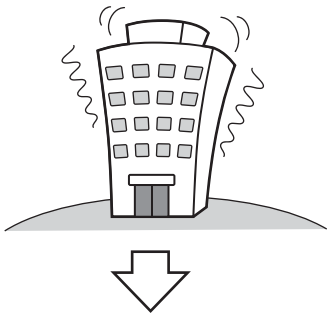
③ DCヒューズ断表示灯(緑色)

・回路保護用のヒューズが溶断すると点灯します。

ご注意

・DCヒューズ断表示灯が点灯したときは、販売店、保守契約店にご連絡ください。

緊急地震放送のしかた

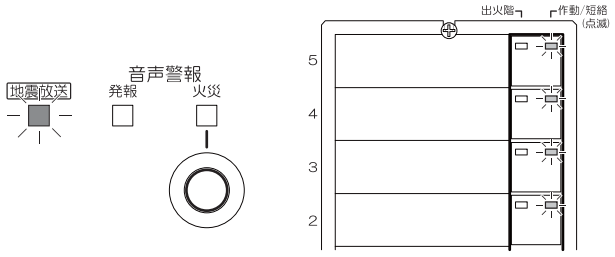


1 緊急地震速報受信端末から制御信号を受信する

2 全館一斉に緊急地震放送が放送される

ピロンポローン　ピロンポローン（NHKチャイム音）
「地震です。落ち着いて身を守ってください。」

・地震放送表示灯点滅（オレンジ色）
・全館の作動表示灯点灯（緑色）



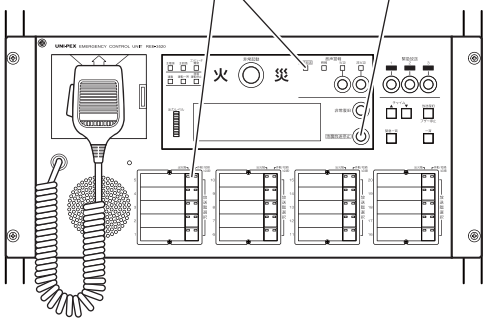
●放送時間は、約15秒です。
（終了後は、元の状態に戻ります。）
●緊急地震放送中は、マイク放送ができません。
※緊急地震放送中は、地震放送停止スイッチ以外の操作は受け付けません。

緊急地震放送を終了する

地震放送停止スイッチを押す

●緊急地震放送を中断して終了します。
（非常放送または、業務放送の制御が継続している場合、緊急地震放送終了後は、移行前の状態に戻ります。）

2 地震放送停止スイッチ



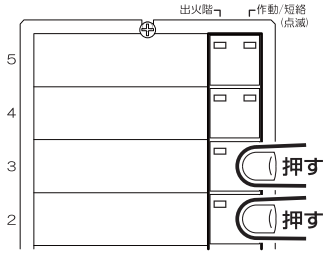
状況に応じて、マイクで放送する

①地震放送停止スイッチを押す

●緊急地震放送を中断してマイクで放送する場合は、緊急地震放送を停止してください。

②放送が必要な階の選択スイッチを押す

●一斉放送の場合は一斉放送スイッチを押してください。
●既に選択されている階のスイッチを押すと、選択が取り消されます。
●放送階の選択をリセットしてから選択し直す場合、放送復旧スイッチを押してください。



③マイク放送をする

●作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。

お願い

・緊急地震放送のシグナル音は、原則として日本放送協会が作成した報知音(NHKチャイム音)を使用してください。

メ　モ

・緊急地震放送のシグナル音は、「緊急地震速報（警報）」（最大震度5弱以上と予想した場合に、予想した震度が4以上の地域に対して気象庁が発表する）に整合していない場合や、騒音等でNHKチャイム音では聞き取りにくい条件下では、特定非営利活動法人リアルタイム地震・防災情報利用協議会(REIC)が作成したサイン音（ヒュン ヒュン ヒュン）に変更することができます。

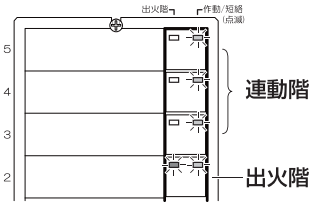
非常放送のしかた　（1）感知器起動（発報連動）

感知器から信号がくる。
（階別信号入力）

1 出火階、連動階に発報放送が放送される

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「ただいま○○の火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。」

（連動一斉表示灯点灯時は、全館一斉に放送されます。）



・火災灯点滅（赤色）
・出火階表示灯点灯（赤色）
・階別の作動表示灯点灯（緑色）

2 操作を選択する

●**火災**　➡火災放送スイッチまたは非常起動スイッチを押す。→3へ
●**非火災**➡「非火災放送」を放送する へ

以下の場合には自動的に火災放送が放送されます。
・発信機起動　・第2感知器作動
・非常電話起動・第1タイマータイムアップ（2～5分※）

3 「火災放送」が放送される

ピンポン　ピンポン　ピンポン　（第1シグナル音）
「火事です!火事です!○○で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」
ビュー　ビュー　ビュー　（第2シグナル音）

●第2タイマーの設定時間（0分／2～5分※が経過すると一斉火災放送に移行します。→4へ
●第2タイマーの設定がOFFのときは一斉放送に移行しません。

4 「一斉火災放送」が放送される

●全館一斉に「火災放送」が放送されます。

※第1、第2タイマーの初期設定は2分です。最大15分まで設定可能ですが、5分を超えて設定する場合は所轄の消防署の許可が必要です。

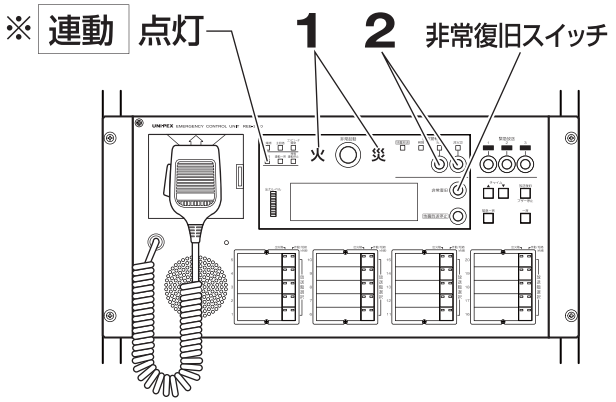
非常放送を終了する（マイク放送中は無効）

非常復旧スイッチを押す

●非常放送を終了し、待機状態に戻ります。
◆感知器の作動している間は、非常復旧スイッチを押しても待機状態に戻りません。

連動 表示➡点灯時（出荷時:点灯）

消灯／点灯の切り換えは、マイクドア内の“書込スイッチ”を押し、液晶画面の操作ガイドより、1:システム設定→5:非常と操作し、3:音声メッセージ内で設定をおこなう。



状況に応じて、マイクで放送する（マイク放送優先）

●作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。
●連動一斉表示灯点灯時は、マイクは全館一斉放送となります。
●火災放送時、マイクで放送した後、マイクスイッチを切ると第2シグナル音が鳴ります。

「非火災放送」を放送する（マイク放送中は無効）

非火災放送スイッチを押す

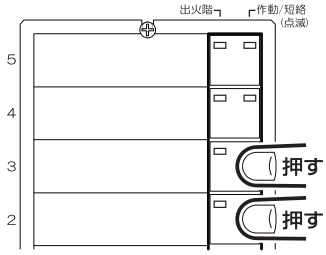
ピンポン　ピンポン　ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

●放送終了後は、非常復旧スイッチを押し、非常放送を終了してください。

放送階を選択（変更）する

放送が必要な階の選択スイッチを押す

●一斉放送の場合は一斉放送スイッチを押してください。
●既に選択されている階のスイッチを押すと、選択が取り消されます。
●放送階の選択をリセットしてから選択し直す場合、放送復旧スイッチを押してください。



◆火災放送時に放送復旧スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと、第2シグナル音が鳴ります。
◆第2タイマーの設定時間（0分／2～5分※）を経過した後は、放送階の選択（変更）および放送復旧はできません。

非常放送のしかた　(2)感知器起動(発報連動停止)

感知器から信号がくる。
(階別信号入力)

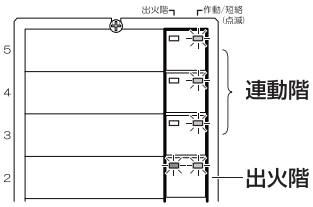
発報連動停止 表示➡点灯(出荷時:消灯)

消灯／点灯の切り換えは、マイクドア内の
"書込スイッチ"を押し、液晶画面の操作ガイドより、
1:システム設定→5:非常と操作し、
3:音声メッセージ内で設定をおこなう。

1 火災音信号が鳴る

ピー、ピー、ピー

(発報放送は放送されません。)



・火災灯点滅(赤色)
・出火階表示灯点灯(赤色)
・階別の作動表示灯点灯(緑色)

2 操作を選択する

●**火災**　➡火災放送スイッチまたは非常起動スイッチを押す。→3へ
●**非火災**➡「非火災放送」を放送する へ

以下の場合には自動的に火災放送が放送されます。
・発信機起動　・第2感知器作動
・非常電話起動・第1タイマータイムアップ(2～5分※)

3 「火災放送」が放送される

ピンポン　ピンポン　ピンポン　(第1シグナル音)
「火事です!火事です!○○で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」
ビュー　ビュー　ビュー　(第2シグナル音)

●第2タイマーの設定時間(0分／2～5分※)が経過すると一斉火災放送に移行します。→4へ
●第2タイマーの設定がOFFのときは一斉放送に移行しません。

4 「一斉火災放送」が放送される

●全館一斉に「火災放送」が放送されます。

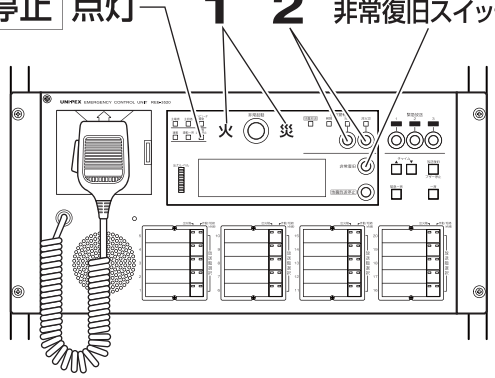
※第1、第2タイマーの初期設定は2分です。最大15分まで設定可能ですが、5分を超えて設定する場合は所轄の消防署の許可が必要です。

非常放送を終了する (マイク放送中は無効)

非常復旧スイッチを押す

●非常放送を終了し、待機状態に戻ります。
◆感知器の作動している間は、非常復旧スイッチを押しても待機状態に戻りません。

※ **発報連動停止** 点灯



状況に応じて、マイクで放送する(マイク放送優先)

●作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。
●火災放送時、マイクで放送した後、マイクスイッチを切ると第2シグナル音が鳴ります。

「非火災放送」を放送する(マイク放送中は無効)

非火災放送スイッチを押す

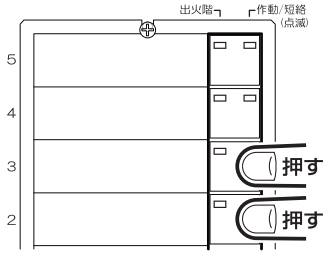
ピンポン　ピンポン　ピンポン(第1シグナル音)
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

●放送終了後は、非常復旧スイッチを押し、非常放送を終了してください。

放送階を選択(変更)する

放送が必要な階の選択スイッチを押す

●一斉放送の場合は一斉放送スイッチを押してください。
●既に選択されている階のスイッチを押すと、選択が取り消されます。
●放送階の選択をリセットしてから選択し直す場合、放送復旧スイッチを押してください。



◆火災放送時に放送復旧スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと、第2シグナル音が鳴ります。
◆第2タイマーの設定時間(0分／2～5分※)を経過した後は、放送階の選択(変更)および放送復旧はできません。

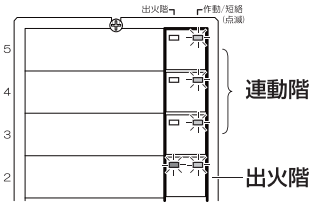
非常放送のしかた　(3)発信機・非常電話起動(発報)

発信機・非常電話から信号がくる。
(階別信号+火災確認信号の同時入力)

1 出火階、連動階に発報放送が放送される

ピンポン ピンポン ピンポン(第1シグナル音)
「ただいま○○の火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。」

(連動一斉表示灯点灯時は、全館一斉に放送されます。)



・火災灯点滅(赤色)
・出火階表示灯点灯(赤色)
・階別の作動表示灯点灯(緑色)

2 操作を選択する

●**火災**　➡火災放送スイッチまたは非常起動スイッチを押す。→3へ
●**非火災**➡「非火災放送」を放送する へ

以下の場合には自動的に火災放送が放送されます。
・感知器作動
・発報放送終了

3 「火災放送」が放送される

ピンポン　ピンポン　ピンポン　(第1シグナル音)
「火事です!火事です!○○で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」
ビュー　ビュー　ビュー　(第2シグナル音)

●第2タイマーの設定時間(0分／2～5分※)が経過すると一斉火災放送に移行します。→4へ
●第2タイマーの設定がOFFのときは一斉放送に移行しません。

4 「一斉火災放送」が放送される

●全館一斉に「火災放送」が放送されます。

※第1、第2タイマーの初期設定は2分です。最大15分まで設定可能ですが、5分を超えて設定する場合は所轄の消防署の許可が必要です。

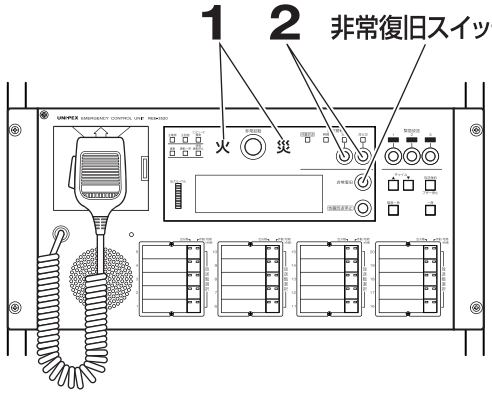
非常放送を終了する (マイク放送中は無効)

非常復旧スイッチを押す

●非常放送を終了し、待機状態に戻ります。
◆感知器の作動している間は、非常復旧スイッチを押しても待機状態に戻りません。

「発報放送」に設定時(出荷時:発報放送)

発報放送／火災放送の切り換えは、マイクドア内の"書込スイッチ"を押し、液晶画面の操作ガイドより、
1:システム設定→5:非常と操作し、
3:音声メッセージ内で設定をおこなう。



状況に応じて、マイクで放送する(マイク放送優先)

●作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。
●連動一斉表示灯点灯時は、マイクは全館一斉放送となります。
●火災放送時、マイクで放送した後、マイクスイッチを切ると第2シグナル音が鳴ります。

「非火災放送」を放送する(マイク放送中は無効)

非火災放送スイッチを押す

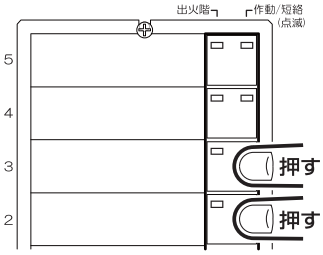
ピンポン　ピンポン　ピンポン(第1シグナル音)
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

●放送終了後は、非常復旧スイッチを押し、非常放送を終了してください。

放送階を選択(変更)する

放送が必要な階の選択スイッチを押す

●一斉放送の場合は一斉放送スイッチを押してください。
●既に選択されている階のスイッチを押すと、選択が取り消されます。
●放送階の選択をリセットしてから選択し直す場合、放送復旧スイッチを押してください。



◆火災放送時に放送復旧スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと、第2シグナル音が鳴ります。
◆第2タイマーの設定時間(0分／2～5分※)を経過した後は、放送階の選択(変更)および放送復旧はできません。

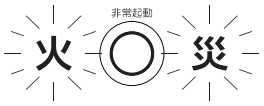
非常放送のしかた　(4)発信機・非常電話起動(火災)

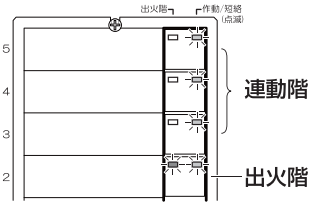
発信機・非常電話から信号がくる。
(階別信号+火災確認信号の同時入力)

1 出火階、連動階に火災放送が放送される

ピンポン　ピンポン　ピンポン（第1シグナル音）
「火事です!火事です!○○で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」
ビュー　ビュー　ビュー　（第2シグナル音）

（連動一斉表示灯点灯時は、全館一斉に放送されます。）





・火災灯点灯（赤色）
・出火階表示灯点灯（赤色）
・階別の作動表示灯点灯（緑色）

●第2タイマーの設定時間(0分／2～5分※)が経過すると一斉火災放送に移行します。→2へ
●第2タイマーの設定がOFFのときは一斉放送に移行しません。

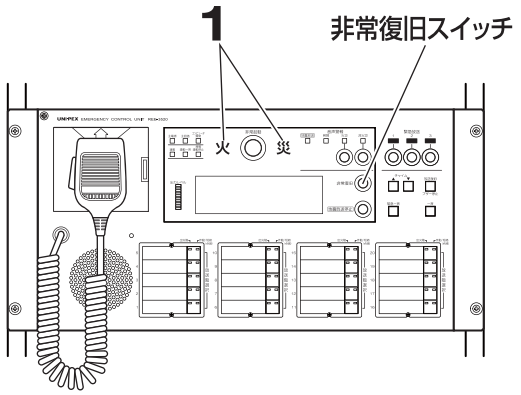
2 「一斉火災放送」が放送される

●全館一斉に「火災放送」が放送されます。

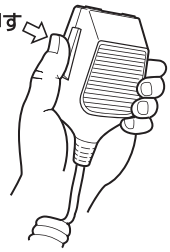
※第1、第2タイマーの初期設定は2分です。最大15分まで設定可能ですが、5分を超えて設定する場合は所轄の消防署の許可が必要です。

「火災放送」に設定時(出荷時:発報放送)

発報放送／火災放送の切り換えは、マイクドア内の“書込スイッチ”を押し、液晶画面の操作ガイドより、
1:システム設定→5:非常と操作し、
3:音声メッセージ内で設定をおこなう。



状況に応じて、マイクで放送する(マイク放送優先)



●作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。
●連動一斉表示灯点灯時は、マイクは全館一斉放送となります。
●火災放送時、マイクで放送した後、マイクスイッチを切ると第2シグナル音が鳴ります。

「非火災放送」を放送する(マイク放送中は無効)

非火災放送スイッチを押す

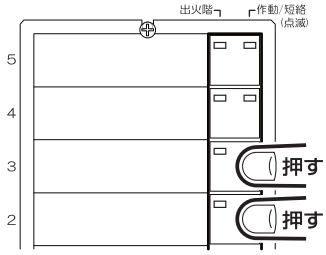
ピンポン　ピンポン　ピンポン(第1シグナル音)
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

●放送終了後は、非常復旧スイッチを押し、非常放送を終了してください。

放送階を選択(変更)する

放送が必要な階の選択スイッチを押す

●一斉放送の場合は一斉放送スイッチを押してください。
●既に選択されている階のスイッチを押すと、選択が取り消されます。
●放送階の選択をリセットしてから選択し直す場合、放送復旧スイッチを押してください。



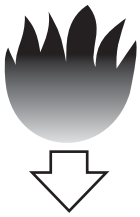
◆火災放送時に放送復旧スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと、第2シグナル音が鳴ります。
◆第2タイマーの設定時間(0分／2～5分※)を経過した後は、放送階の選択(変更)および放送復旧はできません。

非常放送を終了する (マイク放送中は無効)

非常復旧スイッチを押す

●非常放送を終了し、待機状態に戻ります。
◆感知器の作動している間は、非常復旧スイッチを押しても待機状態に戻りません。

非常放送のしかた　(5)手動(発報)



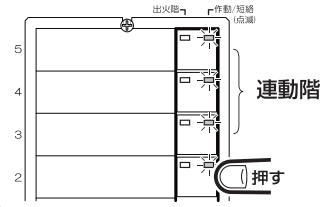
1 非常起動スイッチを押す。

・火災灯点灯(赤色)

2 放送したい階の放送階選択スイッチを押す

発報放送が放送されます。

ピンポン ピンポン ピンポン
(第1シグナル音)
「ただいま火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。」



・火災灯点滅(赤色)
・階別の作動表示灯点灯(緑色)

3 操作を選択する

●**火災**　➡火災放送スイッチまたは非常起動スイッチを押す。→**4**へ
●**非火災**➡「非火災放送」を放送する へ

以下の場合には自動的に火災放送が放送されます。
・発信機起動　・感知器作動
・非常電話起動・第1タイマータイムアップ(2～5分※)

4 「火災放送」が放送される

ピンポン　ピンポン　ピンポン　(第1シグナル音)
「火事です!火事です!火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」
ビュー　ビュー　ビュー　(第2シグナル音)

●第2タイマーの設定時間(0分／2～5分※)が経過すると一斉火災放送に移行します。→**5**へ
●第2タイマーの設定がOFFのときは一斉放送に移行しません。

5 「一斉火災放送」が放送される

●全館一斉に「火災放送」が放送されます。

※第1、第2タイマーの初期設定は2分です。最大15分まで設定可能ですが、5分を超えて設定する場合は所轄の消防署の許可が必要です。

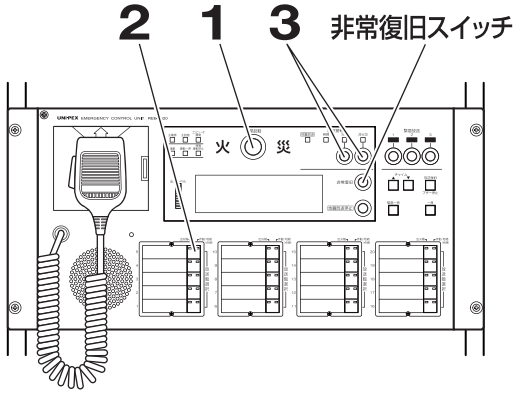
非常放送を終了する (マイク放送中は無効)

非常復旧スイッチを押す

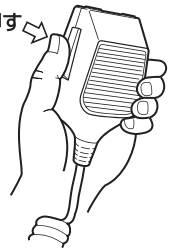
●非常放送を終了し、待機状態に戻ります。
◆感知器の作動している間は、非常復旧スイッチを押しても待機状態に戻りません。

「発報放送」に設定時(出荷時:発報放送)

発報放送／火災放送の切り換えは、マイクドア内の"書込スイッチ"を押し、液晶画面の操作ガイドより、
1:システム設定→5:非常と操作し、
3:音声メッセージ内で設定をおこなう。



状況に応じて、マイクで放送する(マイク放送優先)



●作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。
●火災放送時、マイクで放送した後、マイクスイッチを切ると第2シグナル音が鳴ります。

「非火災放送」を放送する(マイク放送中は無効)

非火災放送スイッチを押す

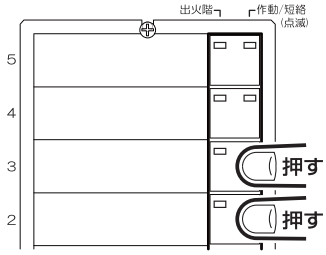
ピンポン　ピンポン　ピンポン(第1シグナル音)
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

●放送終了後は、非常復旧スイッチを押し、非常放送を終了してください。

放送階を選択(変更)する

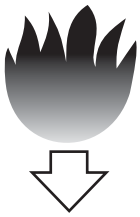
放送が必要な階の選択スイッチを押す

●一斉放送の場合は一斉放送スイッチを押してください。
●既に選択されている階のスイッチを押すと、選択が取り消されます。
●放送階の選択をリセットしてから選択し直す場合、放送復旧スイッチを押してください。



◆火災放送時に放送復旧スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと、第2シグナル音が鳴ります。
◆第2タイマーの設定時間(0分／2～5分※)を経過した後は、放送階の選択(変更)および放送復旧はできません。

非常放送のしかた　(6)手動(火災)

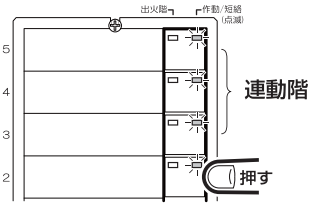


1 非常起動スイッチを押す。

・火災灯点灯(赤色)

2 放送したい階の放送階選択スイッチを押す

・階別の作動表示灯点灯(緑色)



3 「火災放送」が放送される

ピンポン　ピンポン　ピンポン　(第1シグナル音)
「火事です!火事です!火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」
ビュー　ビュー　ビュー　(第2シグナル音)

●第2タイマーの設定時間(0分／2～5分※)が経過すると一斉火災放送に移行します。→4へ
●第2タイマーの設定がOFFのときは一斉放送に移行しません。

4 「一斉火災放送」が放送される

●全館一斉に「火災放送」が放送されます。

※第1、第2タイマーの初期設定は2分です。最大15分まで設定可能ですが、5分を超えて設定する場合は所轄の消防署の許可が必要です。

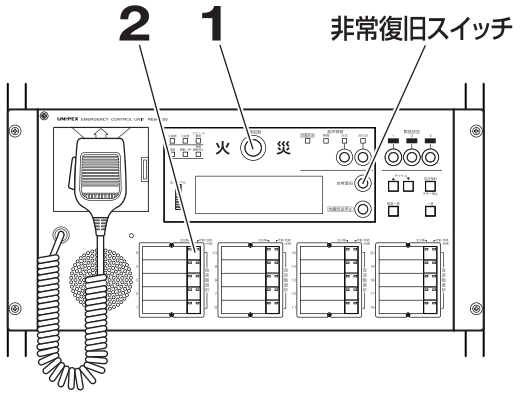
非常放送を終了する (マイク放送中は無効)

非常復旧スイッチを押す

●非常放送を終了し、待機状態に戻ります。
◆感知器の作動している間は、非常復旧スイッチを押しても待機状態に戻りません。

「火災放送」に設定時(出荷時:発報放送)

発報放送／火災放送の切り換えは、マイクドア内の"書込スイッチ"を押し、液晶画面の操作ガイドより、
1:システム設定→5:非常と操作し、
3:音声メッセージ内で設定をおこなう。



状況に応じて、マイクで放送する(マイク放送優先)

●作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。
●火災放送時、マイクで放送した後、マイクスイッチを切ると第2シグナル音が鳴ります。

「非火災放送」を放送する(マイク放送中は無効)

非火災放送スイッチを押す

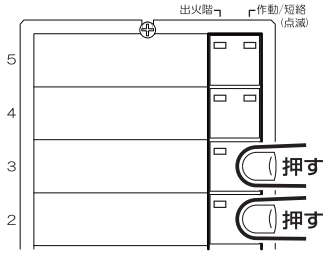
ピンポン　ピンポン　ピンポン(第1シグナル音)
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

●放送終了後は、非常復旧スイッチを押し、非常放送を終了してください。

放送階を選択(変更)する

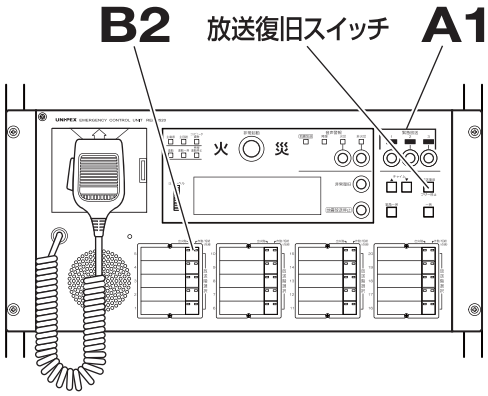
放送が必要な階の選択スイッチを押す

●一斉放送の場合は一斉放送スイッチを押してください。
●既に選択されている階のスイッチを押すと、選択が取り消されます。
●放送階の選択をリセットしてから選択し直す場合、放送復旧スイッチを押してください。



◆火災放送時に放送復旧スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと、第2シグナル音が鳴ります。
◆第2タイマーの設定時間(0分／2～5分※)を経過した後は、放送階の選択(変更)および放送復旧はできません。

緊急放送のしかた



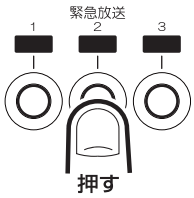
A 緊急放送スイッチによる放送

・緊急放送スイッチに、メッセージが登録されている必要があります。
（登録方法はEL-3000シリーズ 工事説明書「書込編」を参照してください）

B 緊急制御入力による緊急放送

・緊急制御入力に、緊急放送として放送先、メッセージが登録されている必要があります。
（登録方法はEL-3000シリーズ 工事説明書「書込編」を参照してください）

A1 緊急放送スイッチを押す。



A2 緊急放送が放送される

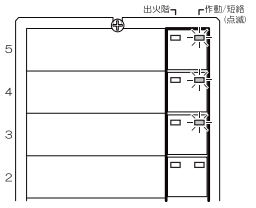
●全館一斉に緊急放送が放送されます。
※メッセージを変更する場合は、EL-3000シリーズ 工事説明書「書込編」を参照してください。
●緊急放送中に緊急地震速報受信信号または非常起動が入力されると、緊急地震放送または非常放送が優先して放送されます。
●メッセージの再生は1回と連続の設定になります。

B1 緊急制御入力端子にメイク信号を入力する

●基本制御端子盤ユニット（RJK-3300）の緊急制御入力端子1～3にメイク信号を入力します。

B2 緊急放送が放送される

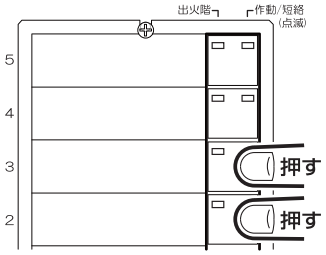
●登録された放送先の作動表示灯が点灯（緑色）し、緊急放送が放送されます。
※メッセージを変更する場合は、EL-3000シリーズ 工事説明書「書込編」を参照してください。



放送階を選択（変更）する

放送が必要な階の選択スイッチを押す

●一斉放送の場合は一斉または緊急一斉スイッチを押してください。
●既に選択されている階のスイッチを押すと、選択が取り消されます。
●放送階の選択をリセットしてから選択し直す場合、放送復旧スイッチを押してください。



緊急放送を終了する（マイク放送中は無効）

放送復旧スイッチを押す

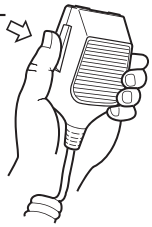
●緊急放送が始まる前の状態に戻ります。

緊急放送の終了（マイク放送中は無効）

緊急制御入力端子のメイク信号が解除されたとき

●緊急放送が始まる前の状態に戻ります。

状況に応じて、マイクで放送する（マイク放送優先）



●作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。
●マイクスイッチを離すと、連続に設定されているときは、緊急放送を放送します。

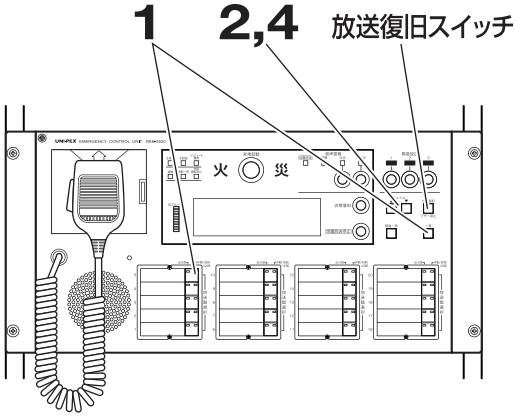
緊急放送メッセージリスト

番号	メッセージ内容
01	（防犯警報音） 緊急事態発生、緊急事態発生、緊急事態発生。
02	ただいま停電が発生しました。復旧作業中ですので、しばらくお待ちください。繰り返します。 ただいま停電が発生しました。復旧作業中ですので、しばらくお待ちください。
03	（サイレン音） 火事です。落ち着いて避難してください。火事です。落ち着いて避難してください。
04	ただいま地震が発生しました。火の元を確認の上、倒壊物に注意して安全確保願います。繰り返します。 ただいま地震が発生しました。火の元を確認の上、倒壊物に注意して安全確保願います。
05	ただいま台風に関する警報が発令されました。今後のテレビ・ラジオ等の情報に注意し安全の確保に努めてください。繰り返します。 ただいま台風に関する警報が発令されました。今後のテレビ・ラジオ等の情報に注意し安全の確保に努めてください。
06	ただいま雷注意報が発表されました。今後のテレビ・ラジオ等の情報に注意して下さい。繰り返します。 ただいま雷注意報が発表されました。今後のテレビ・ラジオ等の情報に注意して下さい。
07	ただいま近隣で津波に関する警報が発表されました。今後のテレビ・ラジオ等の情報に注意し安全の確保に努めて下さい。繰り返します。 ただいま近隣で津波に関する警報が発表されました。今後のテレビ・ラジオ等の情報に注意し安全の確保に努めて下さい。
08	ただいま先ほどの警報は解除されました。繰り返します。 ただいま先ほどの警報は解除されました。
09	ただいまから避難訓練を実施します。繰り返します。 ただいまから避難訓練を実施します。 （サイレン音） 火事です。落ち着いて避難してください。火事です。落ち着いて避難してください。
10	ただいまから避難訓練を実施します。繰り返します。 ただいまから避難訓練を実施します。 ピロンポローン、ピロンポローン（NHKチャイム音）。 地震です。落ち着いて身を守ってください。地震です。落ち着いて身を守ってください。

※防犯警報音は、公益社団法人 日本防犯設備協会が制定した規格音です。

業務放送のしかた

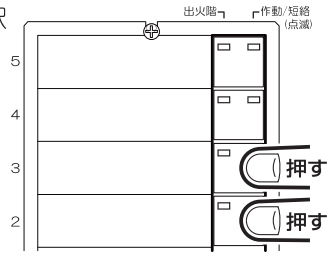
■マイクによる放送



1 放送階を選択する

■個別に放送するとき

●放送したい場所の放送階選択スイッチを押してください。

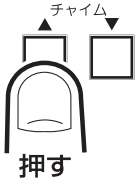


■一斉放送するとき

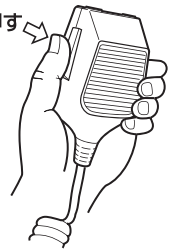
●一斉スイッチを押してください。

2 チャイムスイッチを押す

●必要に応じて、▲(上り4音)を押してください。



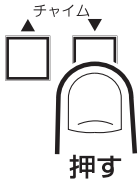
3 マイクで放送する



●マイクを外し、マイクスイッチを押しながら放送してください。
●作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。

4 チャイムスイッチを押す

●必要に応じて、▼(下り4音)を押してください。



業務放送を終了する (マイク放送中は無効)

放送復旧スイッチを押す

●業務放送が終了します。

■外部制御による放送

・外部入力による音声を、外部制御により放送します。

1 外部制御を設定する

書込み選択画面で設定します。次の手順で操作してください。

①「1:システム設定」を選択する。
②「6:業務」を選択する。
③「2:外部制御」を選択する。

```
<業務放送>
1: 優先順位  2:外部制御
3: 緊急放送･制御 4: 音量
数字 ← →: 選択      確定: 次画面
```

④制御入力番号を設定する。

```
<業務放送>  外部制御
   制御入力番号  001

数字 ↑ ↓: 入力      確定: 次画面
```

⑤入力端子を設定する。

```
<業務放送>  外部制御 No.001
3: 予備1
4: 予備2
↑: 前 ↓: 次          確定: 次画面
```

⑥放送階選択スイッチを押して放送階を選択する。
⑦スピーカー出力を「1:通常」と「2:緊急」のどちらかを選択する。
⑧タリー番号を設定する。

2 外部機器を接続する

●非常業務操作ユニット（REE-3520）の後面にある入力端子の中で、1で設定した入力端子に外部機器を接続し、再生状態にしてください。

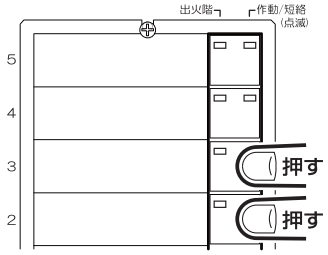
3 外部制御端子をメイクする

●基本制御端子盤ユニット（RJK-3300）の外部制御端子の中で、1で設定した制御入力番号をメイクすると、選択された放送階に外部機器の音源が放送されます。

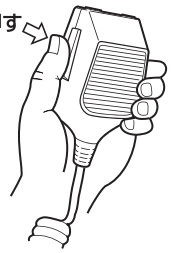
状況に応じて、マイクで放送する

①放送が必要な階の選択スイッチを押す

●一斉放送の場合は一斉放送スイッチを押してください。
●既に選択されている階のスイッチを押すと、選択が取り消されます。
●放送階の選択をリセットしてから選択し直す場合、放送復旧スイッチを押してください。



②マイク放送をする



●作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。
●マイクスイッチを離すと、外部入力による音声放送に戻ります。
※外部制御されている音声入力より、マイク（本体）の優先順位が低い場合は、マイク放送はできません。

業務放送の終了（マイク放送中は無効）

外部制御のメイク信号が解除されたとき

●業務放送が終了します。

各放送の説明

●各放送の説明は次の通りです。

非常業務リモコンからのマイク放送

・非常･業務兼用リモコンのマイクで本体と同様にマイク放送ができます。操作方法も本体と同じです。

業務リモコンからのグループ放送

・業務リモコンを接続して、業務リモコンから本体とは別のグループを設定し、そのグループに放送できます。（グループ設定のしかたは工事説明書「書込編」をご参照ください。また業務リモコンの使い方は業務リモコンに付属の取扱説明書をご参照ください。）

音声ファイル放送

・音声ファイル等を予備1、予備2に接続し、起動させると、緊急コメント、一般コメント等を放送できます。
放送先は任意に設定できます。（放送先の設定のしかたは工事説明書「書込編」をご参照ください。）

時報チャイム放送

・ミュージックチャイム等を接続し、タイマーで起動させると、時報用チャイムを放送できます。
放送先は任意に設定できます。（放送先の設定のしかたは工事説明書「書込編」をご参照ください。）

ページング放送

・電話からの音声をページング入力回路に接続し、起動させると、電話ページング放送ができます。
（放送先の設定のしかたは工事説明書「書込編」をご参照ください。）

BGM放送

・BGM演奏装置を予備1、予備2に接続し、起動させると、BGM放送ができます。
放送先は任意に設定できます。（放送先の設定のしかたは工事説明書「書込編」をご参照ください。）

多元放送（入力マトリックスを使用した放送）

・入力マトリックスユニットを使用して、多元で放送することができます。（入力マトリックスユニットの取扱説明書をご参照ください。）

業務放送の優先順位

単元放送時（入力マトリックスユニットを使用しない場合）

・出荷時の初期設定は、全ての放送が、第1優先で後取り優先となります。
・プログラムの書き込みにより、次の例のように最大7段階に優先順位をつけることができます。
同一優先内は、後取りまたはミキシングどちらかに設定できます。（設定のしかたは工事説明書「書込編」をご参照ください）

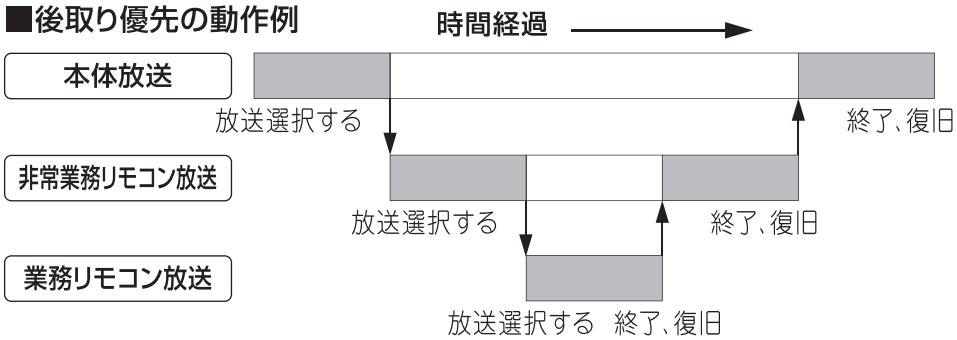
■優先順位の例

放送内容（入力）	第1優先	第2優先	第3優先	第4優先	第5優先	第6優先	第7優先
本体	○						
非常リモコン		○					
一般リモコン					○		
時報チャイム				○			
予備 1						○	
予備 2							○
ページング			○				

多元放送時（入力マトリックスユニットを使用する場合）

・出荷時の初期設定は、入力回路番号順（入力マトリックスユニットの入力No.の小さい方が優先）となっています。
・プログラムの書き込みにより、後取り優先順に設定できます。（設定のしかたは工事説明書「書込編」をご参照ください）

■後取り優先の動作例



設置時の点検

重要

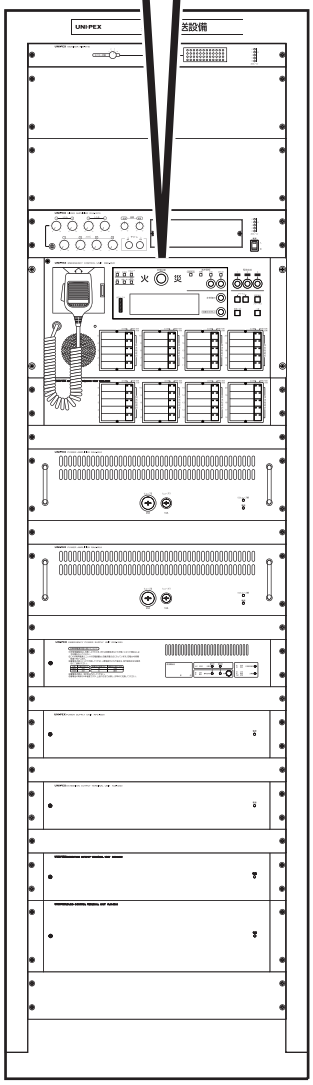
書込作業まで完了したら、通常運用に入る前に次ページ以降に記載されている手順で、非常および業務放送が設定通りに放送されることを確認してください。点検作業を開始する前に以下の内容を確認してください。

1. スピーカの配線は終わりましたか?
2. リモコンマイクなど他の機器の接続は終わりましたか?
3. AC電源は接続しましたか? 分電盤のスイッチは「入」になっていますか?
4. 制御電源ユニットのブレーカーは「ON」になっていますか?
5. 蓄電池のコネクタは接続されていますか?
6. 非常電源ユニットの蓄電池異常解除スイッチを押して、異常解除をしましたか?
   (充電が不十分な時は、蓄電池点検表示灯が赤く点灯します)

停電時の確認

非常放送時、AC電源を切り、蓄電池動作に切り換わることを確認してください。

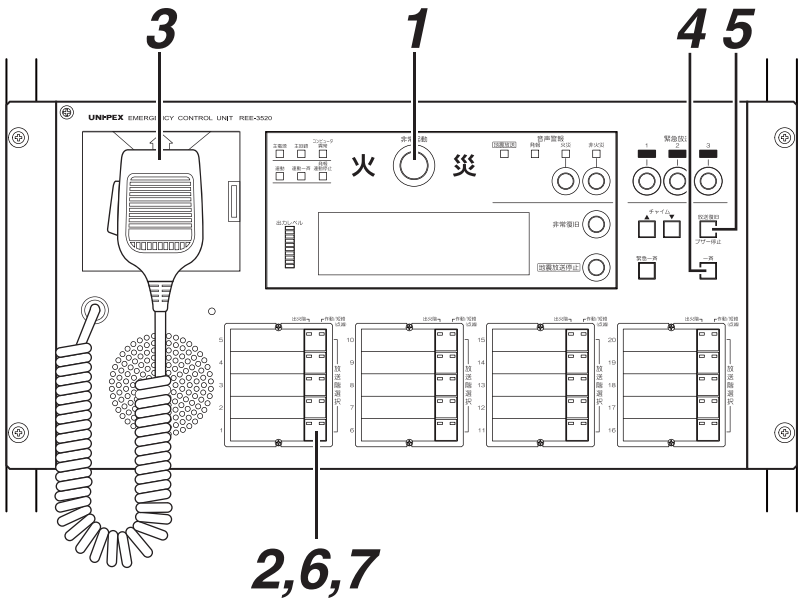
●運用を開始する前に正しく動作するか点検してください。
●定期的に保守点検をおこなってください。
(34～36ページの保守点検のしかたをお読みください。)



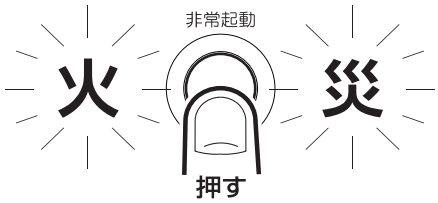
設置時の点検

■動作点検(非常放送)

●各設定状態における動作は、取扱説明書または、操作説明書をご覧ください。

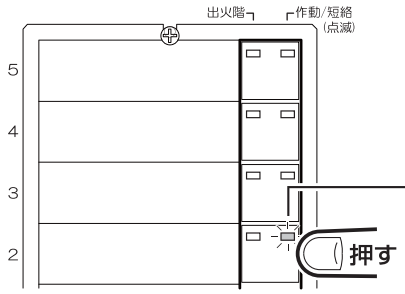


1 手動で非常起動スイッチを押します。
火災灯が点灯しますか?



●手動のとき押すと、火災灯が点灯します。

2 放送階選択スイッチを1ヶ所押します。
押された階の作動表示灯が点灯し、音声警報放送(発報放送または火災放送)が流れますか?



●放送階選択スイッチを押します。

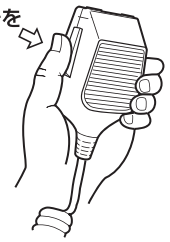
●押された階と書込み設定された放送階の作動表示灯が緑色に点灯します。

3 マイクをはずし、アナウンスします。
マイクスイッチを押すと、音声警報放送が止まり、アナウンスが*2* で押された階に流れますか?

4 一斉放送スイッチを押しアナウンスします。
すべての作動表示灯が点灯し、全館にアナウンスが流れますか?

5 放送終了後は、放送復旧スイッチを押します。
作動表示灯が消えスピーカー放送も切れますか?

※第2タイマーにより一斉火災放送に移行した後は、放送復旧スイッチは無効となります。非常復旧スイッチを押して*1* からやりなおしてください。

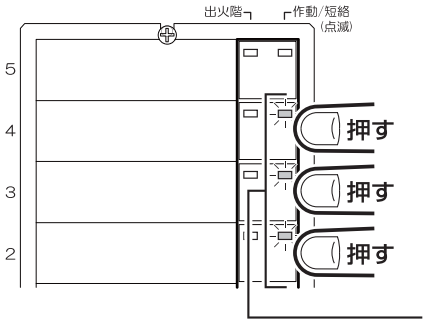


●スイッチを押しながら放送します。

●一斉放送スイッチを押すとすべての作動表示灯が緑色に点灯します。

●放送復旧スイッチを押すとすべての作動表示灯が消えます。

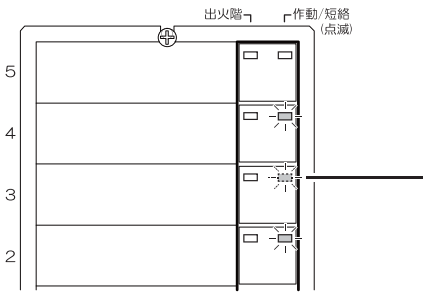
6 任意の放送階選択スイッチを2、3ヶ所押します。
作動表示灯が点灯しますか?



●放送したい階の放送階選択スイッチを押します。

●作動表示灯が緑色に点灯します。

7 *6* で押した階のいずれか1つのスピーカ回線の出力保護用ヒューズをはずします。(火災または非火災放送を出力してください)
はずした階の作動表示灯が点滅しますか?



●ヒューズをはずした場所の作動表示灯が緑色に点滅します。

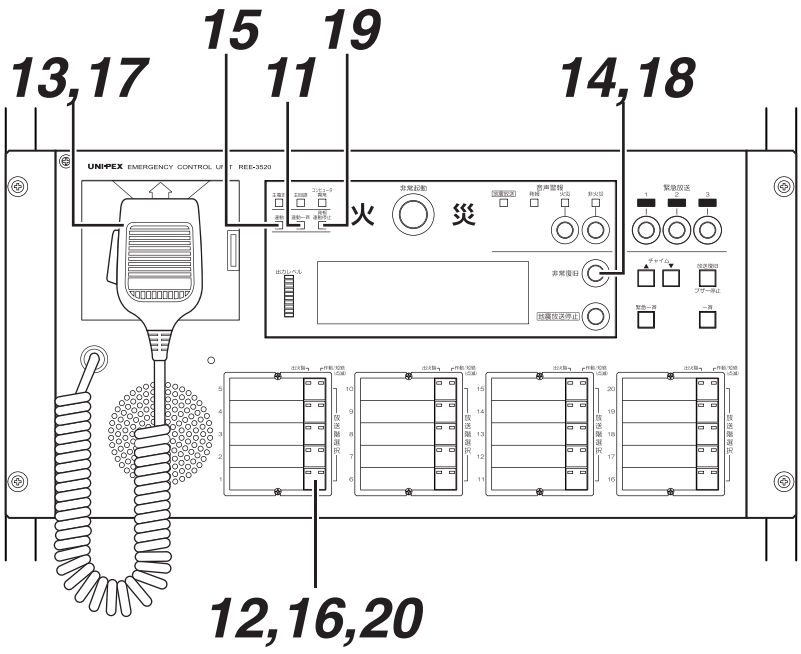
●出力保護用ヒューズを元に戻します。

8 *7* の状態で、分電盤のスイッチを「切」にします。
7 の状態が継続していますか?
(確認後、すぐに分電盤のスイッチを「入」にしてください。)

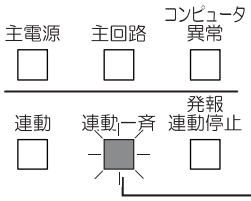
9 非常復旧スイッチを押します。
火災灯、点灯している作動表示灯が消えますか?

10 コンピュータ制御スイッチ(マイクドア内)を「切」にしてから「入」にしてください。
短絡表示である点滅している作動表示灯が消えますか?

設置時の点検

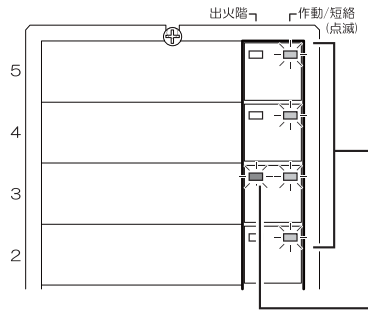


11 書込み設定で連動一斉の設定をしてください。
連動一斉表示灯が点灯しますか?



●連動一斉としてご使用になるとき、赤色に点灯します。

12 自火報(自動火災感知器)の起動入力端子をショートします。
火災灯が点滅、全館に音声警報放送が流れ、
出火階表示灯、すべての作動表示灯が点灯しますか?



●非常時、すべての作動表示灯が緑色に点灯します。

●非常時、赤色に点灯し、出火階を表示します。

13 マイクをはずし、アナウンスします。
マイクスイッチを押すと、音声警報放送が止まり、アナウンスがすべての階に流れますか?

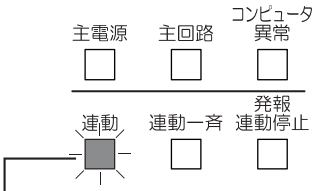
14 自火報(自動火災感知器)の起動入力端子を復旧し非常復旧スイッチを押します。
火災灯、出火階表示灯、すべての作動表示灯が消えますか?

15 書込み設定で発報連動の設定をしてください。
「連動一斉」が消え、連動表示灯が点灯しますか?

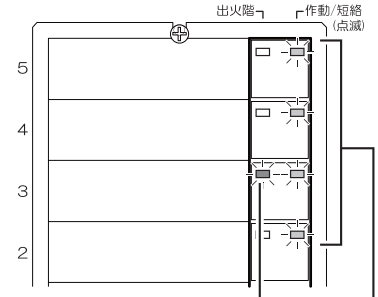
16 自火報(自動火災感知器)の起動入力端子をショートします。
火災灯が点滅し、音声警報放送が流れ、出火階表示灯、出火階指定で書き込まれた出火階および連動階などの作動表示が点灯しますか?

●非常時、赤色に点灯し、出火階を表示します。

●非常放送を復旧させるとき、
このスイッチを押します。



●連動としてご使用になるとき、
赤色に点灯します。



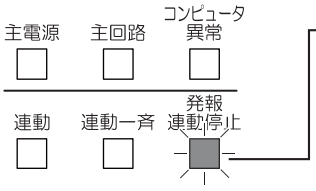
●非常時、出火階および連動階など
の作動表示灯が点灯します。
（出火階指定で書き込まれたモード
で作動します。）

17 マイクを外し、アナウンスします。マイクスイッチを押すと、音声警報放送が止まり、出火階、連動階などにアナウンスが流れますか?

18 自火報（自動火災感知器）の起動入力端子を復旧し非常復旧スイッチを押します。火災灯、出火階表示灯、すべての作動表示灯が消えますか?

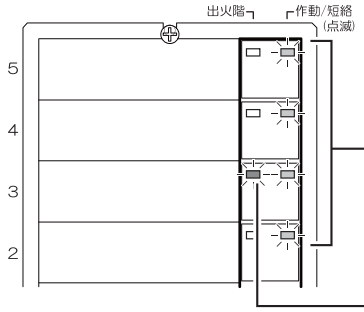
●非常放送を復旧させるとき、
このスイッチを押します。

19 書込み設定で発報連動停止の設定をしてください。連動表示灯が消灯し、発報連動停止表示灯が点灯しますか?



●発報連動停止としてご使用になる
とき、赤色に点灯します。

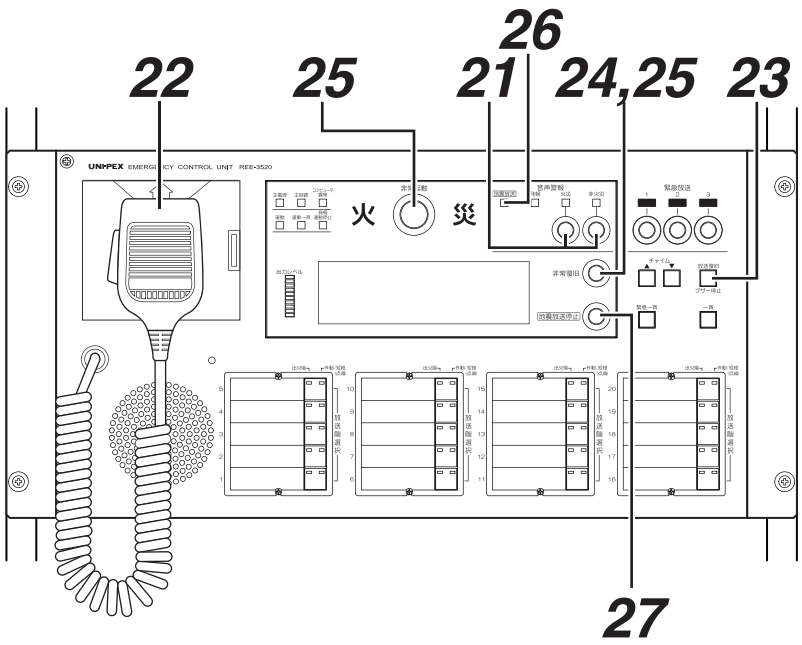
20 自火報（自動火災感知器）の起動入力端子をショートします。火災灯が点滅し、火災音信号「ピー、ピー、ピー」が鳴り、出火階表示灯、出火階指定で書き込まれた出火階および連動階などの作動表示灯が点灯しますか?



●非常時、出火階および連動階などの
作動表示灯が緑色に点灯します。
（出火階指定で書き込まれたモードで
作動します。）

●非常時、赤色に点灯し、出火階を表示
します。

設置時の点検

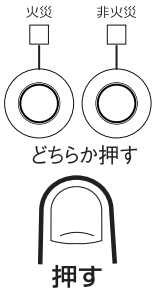


22 マイクをはずし、アナウンスします。
マイクスイッチを押すと、音声警報放送が止まり、出火階、連動階などにアナウンスが流れますか?

23 放送終了後は放送復旧スイッチを押します。
作動表示灯が消え、音声警報音が止まりますか?

24 自火報(自動火災感知器)の起動入力端子を復旧させ、非常復旧スイッチを押します。
火災灯、すべての作動表示灯、出火階表示灯が消えますか?

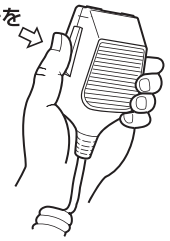
21 火災放送スイッチまたは非火災放送スイッチを押します。
自動的に出火階、連動階などに火災放送または非火災放送が流れますか?(火災放送は次の操作まで、非火災放送は2回、繰り返し流れます。)



●火災音信号(ピー、ピー、ピー)が消え、火災放送または非火災放送が流れます。

火災放送	ピンポン ピンポン ピンポン (第1シグナル音) 「火事です!火事です!○○で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」 ビュー ビュー ビュー (第2シグナル音)
非火災放送	ピンポン ピンポン ピンポン (第1シグナル音) 「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

スイッチを
押す



放送復旧

押す

●放送復旧スイッチを押すと
作動表示灯が消えます。

非常復旧

押す

●非常放送を復旧させるとき、
このスイッチを押します。

25 非常起動スイッチを押し、任意の放送階選択スイッチを押すと発報放送を放送します。
第1タイマー設定時間経過後、火災放送が放送されますか?
第2タイマー設定時間経過後、一斉火災放送が放送されますか?

非常起動

火 災

押す

確認後は非常放送復旧スイッチを押して、音声警報を止めてください。

非常復旧

押す

26 基本制御端子盤の緊急地震放送入力端子をショートします。
地震放送表示灯が点滅し、緊急地震放送が放送されますか?

地震放送　発報

緊急地震放送

ピロンポローン ピロンポローン（NHKチャイム音）
「地震です。落ち着いて身を守ってください。」

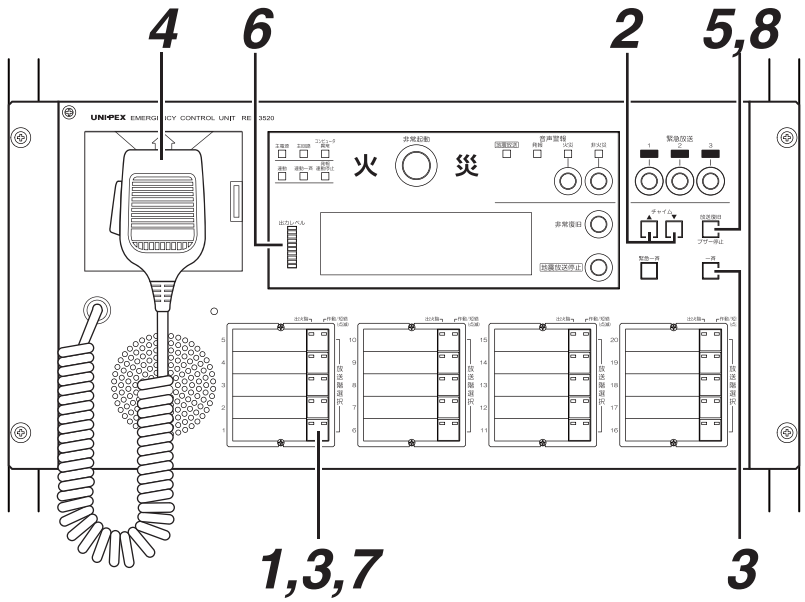
27 緊急地震放送を放送中に、地震放送停止スイッチを押してください。
地震放送表示灯が消灯し、緊急地震放送が終了しますか?

地震放送停止

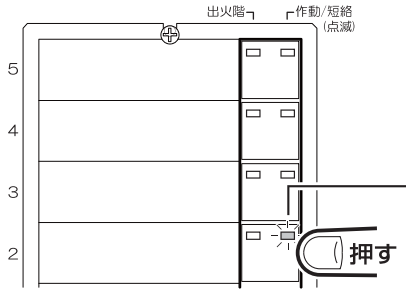
押す

設置時の点検

■動作点検(業務放送)



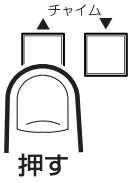
1 任意の放送階選択スイッチを押します。
押された階の作動表示灯が点灯しますか?



●放送したい階の放送階選択スイッチを押します。

●作動表示灯が緑色に点灯します。

2 チャイムスイッチを押します。
1 で押した階にチャイムが鳴りますか?



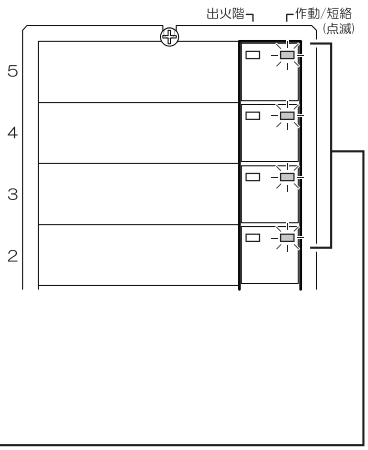
●放送したい場所の放送階選択スイッチを押した後に、チャイムスイッチを押します。

3 一斉放送スイッチを押します。
すべての作動表示灯が点灯しますか?

●一斉放送スイッチを押すとすべての作動表示灯が緑色に点灯します。

4 マイクをはずし、アナウンスします。
マイクスイッチを押すと、アナウンスが全館に流れますか?

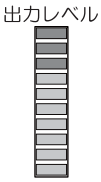
5 放送終了後は、放送復旧スイッチを押します。
作動表示灯が消え、スピーカー放送も切れますか?



●スイッチを押しながら放送します。

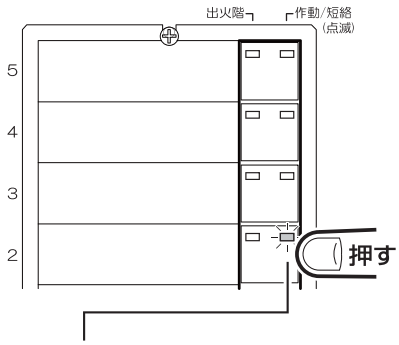
●放送復旧スイッチを押すと、作動表示灯が消えます。

6 書込み設定で、時報チャイム、緊急放送、緊急制御について出力レベルを設定します。

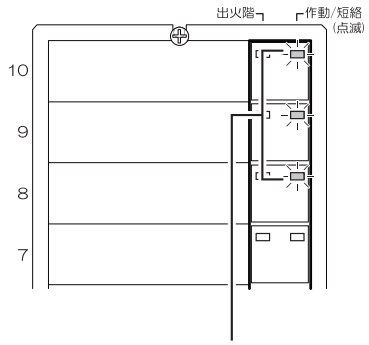


●出力レベル表示灯により、各々の音量を決めてください。

7 書込み設定したブロックスイッチを押し、アナウンスします。ブロックスイッチおよびブロックスイッチに対応した放送階の作動表示灯が点灯し、アナウンス放送が流れますか?



●ブロックスイッチの作動表示灯が緑色に点灯します。



●ブロックスイッチに対応した放送階の作動表示灯が緑色に点灯します。

8 放送終了後は放送復旧スイッチを押します。作動表示灯が消えますか?

●放送復旧スイッチを押すと作動表示灯が消えます。

保守点検のしかた(保守点検者の方へ)

ご注意

非常放送設備の保守は、消防設備士(第4類甲、乙、第7類乙)または、第2種消防設備点検資格者でなければおこなえませんのでご注意ください。

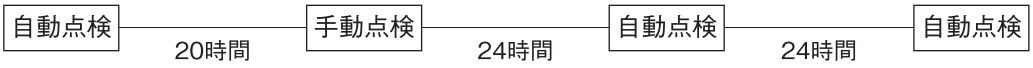
■点検について

●本機にはセルフチェック機能があり、コンピューターが非常業務リモコン通信、スピーカー回線(短絡)、マイク、ローカルカット、システムを常時点検しています。

●蓄電池の自動点検は、24時間おきに点検をおこないます。任意の時間に点検をおこないたい場合は、書込み設定により、点検時間を何時間後に実施するかを設定できます(以降は24時間おきとなります)。設定方法は工事説明書(書込編)を参照ください。

●コンピューターが異常を発見したときは、各異常についての表示と同時に警告音(ブザー:ピー)が鳴ります。異常箇所を確認してから、販売店、保守契約店に連絡してください(異常は本体か非常業務リモコンかを確認してください)。

※手動で蓄電池の点検をおこないますと、コンピューターは、それから24時間おきに自動的に点検をおこないます。



○警告音を止めるには、操作パネルの放送復旧(ブザー停止)スイッチを押してください。

●一時的に止めることができます。異常表示部の表示灯は点灯したままです。(コンピューター異常表示灯点灯時を除く。)

■異常表示について

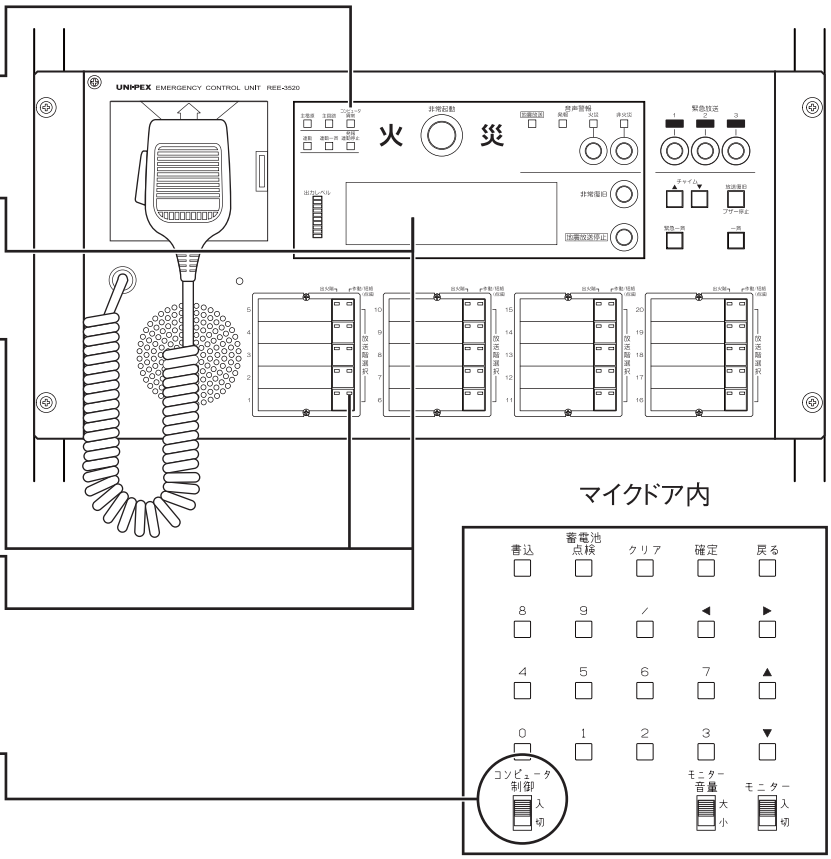
コンピュータ異常
・コンピュータ異常表示灯が点灯(赤)します。

マイクまたはユニット異常
・LCD画面に表示されます。

短絡表示
・スピーカ回線が短絡すると、短絡した場所の作動表示灯が点滅(緑)します。
・LCD画面に表示されます。

蓄電池異常
・非常電源ユニット(RDE-3220)の蓄電池点検表示灯(赤)が点灯します。(次頁参照)
・LCD画面に表示されます。

コンピュータ異常、蓄電池異常、マイク異常、ユニット異常、短絡異常になったとき、復旧後は、コンピュータ制御スイッチを「切」にしてから(リセット)、「入」にしてください。



■総合点検について

○外部に音を出さずに、本機の総合点検ができます。

①マイクドアを開け、書き込みモードにて点検の設定をします(設定方法は工事説明書(書込編)をご覧ください)。

②緊急地震放送、非常放送および業務放送をおこないます。このとき、外部には音が出ませんので、それぞれの表示灯および出力レベル表示灯が働いていることを確認します。

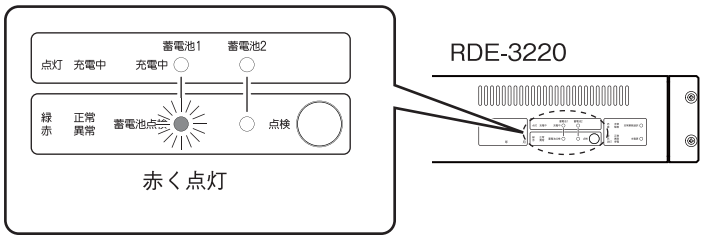
③全ての動作を確認しましたら、点検モードを終了してください。

■電源の点検について（自動点検）

●コンピューターが24時間おきに点検をおこないます。

❶コンピューターが蓄電池の異常を発見したとき

・非常電源ユニット（RDE-3220）の蓄電池点検表示灯（赤）が点灯およびLCD画面に異常表示します。
・蓄電池の接続に異常がないか、確認してください。

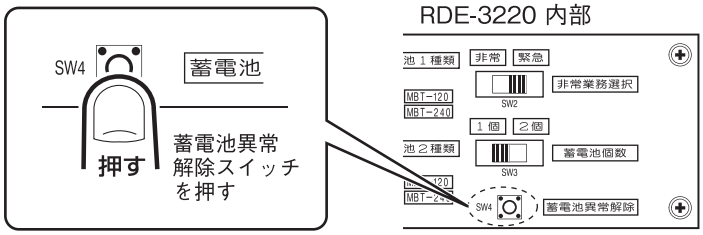


❷新しい蓄電池と交換してください

・蓄電池の交換手順は、工事説明書（本編）16頁「蓄電池の交換手順」を参照してください。

❸処置

・ 蓄電池点検表示の解除は、非常電源ユニット（RDE-3220）内部の蓄電池異常解除スイッチを押してください。
・LCD画面の異常表示を復帰するには、非常業務操作ユニット（REE-3520）マイク扉内にあるコンピューター制御スイッチを一度「切」にし、再度「入」にしてください。



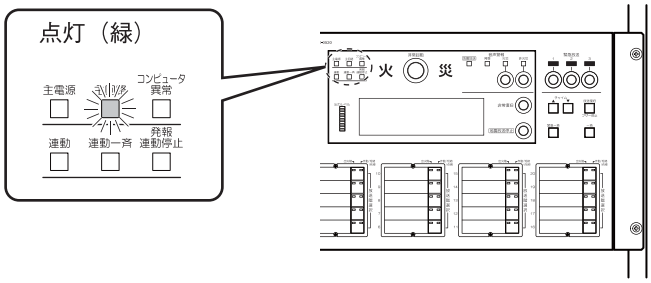
■電源の点検について（手動点検）

❶主回路電源電圧を確認してください。

●蓄電池点検スイッチを押さないで、非常業務操作ユニット（REE-3520）の主回路表示灯が点灯（緑）していることを確認してください。

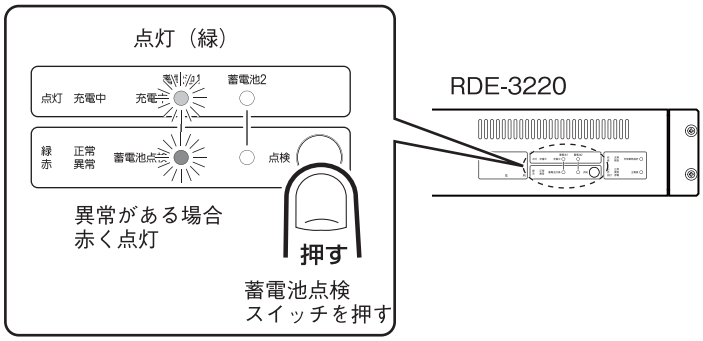
❷充電中表示灯が点灯していることを確認してください。

●充電中は点灯（緑）となります。



❸蓄電池電圧を確認してください。

●非常電源ユニット（RDE-3220）の蓄電池点検スイッチを押してください。
蓄電池に異常がある場合、蓄電池点検表示灯（赤）が点灯します。
※充電開始直後は充電が不充分なため、赤く点灯する事がありますが、異常ではありません。



⚠注意

・蓄電池の電圧の点検は、1日の点検で2回以内までとしてください。
・指定回数より多く蓄電池点検スイッチを押したり押し続けたりすると、蓄電池が消耗し、非常時に本システムが動作しなくなる恐れがあります。

保守点検のしかた（保守点検者の方へ）

■蓄電池の交換について

⚠注意

蓄電池の交換は、販売店か保守契約店に依頼する
感電の原因となります。

●蓄電池は非常放送されなくても、寿命があります。点検の際、容量不足があれば、新品と交換してください。
※交換した蓄電池の取り扱いは注意してください。
・コネクターの端子部にテープ等を巻いて絶縁し、金属製のものが当たらないようにしてください。
・持ち運びの際、落下させたり強い衝撃を与えたりしないでください。
・加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。
・液漏れした場合、目に入ったり、皮膚や衣服に付かないよう十分注意してください。
●使用する電力増幅ユニットによって必要な蓄電池の容量、個数に違いがあります。右表を参考に接続するユニットに合わせて蓄電池を選定してください。

電力増幅ユニット	接続するバッテリー、個数
RAA-3212	MBT-120×1
RAA-3324	MBT-240×1
RAA-3436	MBT-240×2

●不要になったニッケル・カドミウム蓄電池は、貴重な資源を守るために、廃棄しないでニッケル・カドミウム蓄電池のリサイクルにご協力ください。

Ni-Cd

⚠警告

●蓄電池の寿命は4年です。4年毎に必ず新しい蓄電池に交換してください。
また寿命は使用状態により違いますので、それ以前でも点検のときに、容量不足があれば新しい蓄電池に交換してください。火災のとき動作しない原因となります。

⚠注意

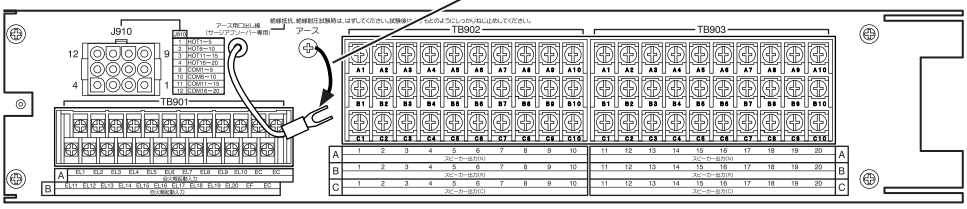
●蓄電池を交換する際は電力増幅ユニットのワット数に合わせて必ず上表のものを使用してください。
これ以外の蓄電池を使用することは充電電流の違いなどから過充電などの危険な状態になりますので絶対に使用しないでください。
●蓄電池を交換する場合は、ブレーカーをONにした状態でおこなってください。

■絶縁抵抗試験のしかた

○スピーカ端子および火災報知器側（EL／EF／EB）で絶縁抵抗試験をする場合

●制御電源ユニットのブレーカーをOFFにして、かつ増設出力端子盤ユニットのアースラグをはずしてください。
・はずしたアースは試験後にもどしてください。
・絶縁抵抗試験はブレーカーOFFの状態でおこなってください。

絶縁抵抗試験時は、増設出力端子盤ユニットのアースラグをはずしてください。



増設出力端子盤ユニット
RJB-3220

重要

スピーカー接続、EL／EF／EB等の各端子には、雷サージおよび静電気保護のためにシャーシとの間に、サージアブソーバが取り付けられています。指定のコネクタをはずしてから絶縁抵抗試験をおこなってください。はずさないで試験をおこなうと試験結果はNGとなります。
また絶縁抵抗試験は配線の片側と大地間でおこないます。配線相互間で行うと接続されている機器（含む本機）を破損する場合があります。

故障と思う前に

ほんのちょっとしたことで正常に動作せず、故障かな?と思うことがあります。次の要領で点検してみてください。

⚠ 警告

●次の方法で点検されても正常に動作しないとき、または使用中に急に異常が発生したときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙などの異常が無いことを確認し、販売店などへご連絡ください。

●本機は絶対に分解しないでください。感電の恐れがあります。修理は、必ず販売店などにご依頼ください。

症状		点検項目	処置
電源が入らない。 電源表示灯が点灯しない。	全てのユニットの電源が入らない。 充電中表示灯が消えている。	主電源(AC100V)供給元のブレーカーが作動していませんか。	ブレーカーを「入」にする。
	電力増幅ユニットの電源表示灯が消えている。	電源ヒューズが溶断していませんか。	新しいヒューズと交換します。
音が全く出ない。	動作表示灯(短絡表示灯)が点滅している。	RJB-3220の回路保護ヒューズが溶断しています。	短絡箇所をなおし、RJB-3220のヒューズを交換してください。(注)
		スピーカーのアッテネーターが「OFF」になっていませんか。	スピーカーアッテネーターを1、2、3のいずれかの適正な位置にセットします。
		液晶パネルに異常表示されていませんか。	「自動点検について」の項に従ってチェックしてください。
音が時々途切れる。	特定の入力機器(マイクロホンなど)の放送が時々途切れる。	その入力機器の接続コードが断線しかかっていませんか。	接続コードの交換、手直しをします。
	全ての放送が時々途切れる。	途切れたとき放送出力レベル計が全点灯(赤色の所まで全部点灯)しませんか。	発振しています。 発振の原因を取り除きます。(注)

(注)これらの原因調査や交換は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

定　格

■非常業務操作ユニット　REE-3520

電源	DC24V
消費電流	350mA
発報連動モード	連動、連動一斉、発報連動停止
発報火災切換	発報、火災
警報音	第1シグナル音、第2シグナル音、発報放送、火災放送、非火災放送、緊急地震放送
階情報	65の階情報を標準搭載、特注で階情報の増設可能
音声合成部	日本語／日本語＋英語　切換
S／N	非常・業務マイク　60dB以上　その他の入力　65dB以上
周波数特性	非常・業務マイク　300Hz～6kHz　その他の入力　50Hz～15kHz
入力	非常・業務マイク　：-46dBV　600Ω　不平衡 ミキサー入力　：-2dBV　600Ω　不平衡 時報チャイム　：-2dBV　600Ω　不平衡 予備1　：-2dBV　600Ω　不平衡 予備2　：-22dBV　600Ω　不平衡 ページング　：-22dBV　600Ω　不平衡 非常・業務リモコン　：-18dBV　75Ω　平衡 一般リモコン　：-12dBV　600Ω　平衡
出力	0dBV　600Ω　平衡×3
モニタスピーカー	0.3W　8Ω
液晶表示	書込操作ガイド、放送内容指示、非常放送操作ガイド、異常表示、点検操作ガイド、動作状態表示、ログ表示 文字数：17文字×4行
仕上げ	パネル、ケース：マンセルN4.5　近似色グレー
寸法	幅480mm　高さ221.5mm　奥行120mm
質量	4.8kg

■制御電源ユニット　RPC-3200

電源	AC100V　50/60Hz
消費電力	150W
制御用電源	DC24V　2.5A　（増設電源組み込み時5A）
AC電源出力	連動　：5アウトレット　最大40A 非連動：3アウトレット　最大3A
仕上げ	パネル、ケース：マンセルN4.5　近似色グレー
寸法	幅480mm　高さ88mm　奥行350mm
質量	6.0kg

■増設出力端子盤ユニット　RJB-3220

電源	DC24V
消費電流	350mA
スピーカー回線	通常・緊急・共通：各20回線（端子台） 許容出力　：最大300W/回線 ※出荷時はスピーカー回線保護ヒューズ0.5Aで50Wに設定
仕上げ	パネル、ケース：マンセルN4.5　近似色グレー
寸法	幅480mm　高さ88mm　奥行350mm
質量	5.8kg

■基本制御端子盤ユニット　RJK-3300

電源	DC24V
消費電流	150mA
非常業務リモコン接続端子	音声入力：2端子
外部制御端子	28端子　無電圧メイク接点出力　DC24V
EB出力	1端子　無電圧メイク接点出力　DC24V　最大3A
電源カットリレー出力	1端子　常時24V出力、非常放送時断
スピーカー切換出力	1端子　無電圧メイク接点出力　DC24V　最大3A
停電制御入力端子	1端子　無電圧メイク入力
緊急制御入力端子	3端子　無電圧メイク入力
タリー出力	10出力　オープンコレクター出力　DC24V　最大0.1A
汎用制御出力	3出力　オープンコレクター出力　DC24V　最大0.1A
一般リモコン音声入力端子	2入力　-2dBV　600Ω　平衡 本体動作表示出力　：1端子　DC24V　50mA 一般リモコン用電源出力：1端子　DC24V　400mA
仕上げ	パネル、ケース：マンセルN4.5　近似色グレー
寸法	幅480mm　高さ132mm　奥行350mm
質量	5.7kg

■付属品

取扱説明書（保証書付）・・・・・・・・・・・・・・・1
工事説明書（本編）・・・・・・・・・・・・・・・・・1
工事説明書（書込編）・・・・・・・・・・・・・・・・1
操作説明書（カードケース入り）・・・・・・・・・・・1
ヒューズ（0.5A,30mm）・・・・・・・・・・・・・・・6
ヒューズ（1A,30mm）・・・・・・・・・・・・・・・・6
ヒューズ（1.5A,30mm）・・・・・・・・・・・・・・・5
ヒューズ（2A,30mm）・・・・・・・・・・・・・・・・5
ヒューズ（3A,30mm）・・・・・・・・・・・・・・・・5
ヒューズ（4A,30mm）・・・・・・・・・・・・・・・・1
3極大形単頭プラグ・・・・・・・・・・・・・・・・・3
放送階選択ネームカード（赤）・・・・・・・・・・・・1
放送階選択ネームカード（青）・・・・・・・・・・・・1
通信ケーブル（モジュラータイプ　0.6m）・・・・・・・1
通信ケーブル（モジュラータイプ　2.1m）・・・・・・・1
制御ケーブル（2P-2P　0.5m）・・・・・・・・・・・・1
制御ケーブル（8P-8P　0.5m）・・・・・・・・・・・・1
制御ケーブル（4P-4P　1.9m）・・・・・・・・・・・・1
制御ケーブル（2P-2P　2m）・・・・・・・・・・・・・1
制御ケーブル（10P-10P　2m）・・・・・・・・・・・・1
制御ケーブル（12P-12P 2.4m）・・・・・・・・・・・・1
3極大形単頭プラグ付コード（2.4m）・・・・・・・・・1

ラック形非常用放送設備　EL-3200, EL-3150

保証書

製造番号	
保証期間	お買い上げ日 平成　　年　　月　　日より 電子回路部1ヶ年、ケース(外装部) 6ヶ月
お客様	お名前　　様 ご住所〒 電話(　　)　　-
販売店	店名・住所　　印 電話(　　)　　-

複写

本書は本書記載内容で無料修理を行なうことを保証するものです。
お買い上げの日から上記期間内に故障が発生した場合は本書を提示のうえ、
お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

製造元 日本電音株式会社
発売元 ユニペックス株式会社

保証規定

この保証書は日本国内においてのみ有効です。この保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
（This warranty is valid only in Japan）

無料修理保証の範囲

①保証期間内において、取扱説明書などに従った正常な使用状態において故障した場合に無料で修理いたします。
②修理の際は必ず保証書の提示があること。
③当保証書の所定項目に必要事項が記入され、故意に字句を訂正していないこと。

無料修理保証の免責範囲

（次のような場合は保証期間内でも有料修理となります。）
①使用上の誤り及びお取扱いの乱用などによる故障、磨耗。
②不当な修理改造による故障、損傷。
③正常なご使用でも、消耗部品の自然消耗、磨耗、劣化によるもの。
④お買上げ後の落下、傷など、お取り扱い上に起因するもの。
⑤火災、水害、落雷、地震、その他の天災によるもの。また塩害、有毒ガス、異常電圧などが原因の損傷。
⑥故障の原因が本製品以外の機器の影響によるもの。
⑦常識的に正常な動作状態であるにもかかわらず、修理または部品交換などの要求をされる場合。